

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	2	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多い。そのため、最初の授業でCM映像やアニメや絵本などを教材として使用し、学生の関心を高めた。その後の授業でも、講義以外の生活の場でも学習の目を向けるよう教材を選んだ。</p> <p>看護学科であることから、「ケア」をめぐるジェンダーの問題を理解し、今後の職務に活かせるよう教科書を活用した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>授業の中で、提出されたミニレポートでは、ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていると思われる。試験の結果に関しては、上位者と下位者の2極化しており、ジェンダー問題は社会構造が生み出したという視点が確立できているかどうかの違いによる。但し、成績下位者にも授業の感想においては、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題についての自分の考えを述べており、基礎的な知識は理解していることが確認された。選択科目であり、テーマに関心の高い学生が集まった理解は深められたと思われる。</p>					
<p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>試験結果から、一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題を歴史的、構造的、国際的への理解が不十分ではあった。しかしながら、「内容がこい、盛りだくさんの内容、新しい知識をたくさん得ることができた」という感想も出ており、おおむね内容的妥当性は認められる</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生から「教科書は必要なかったと思う」という意見が出ていたが、原因は映像資料やデータ集を使用し、ミニレポートなどにも時間を割いたためかと思われる。しかしながら、教科書の内容は講義ごとに板書にて確認し、試験問題も教科書に準拠しているため今後も教科書は必要である。 思考を深めるために学生同士の意見交換を取り入れたが、その結果を全体に反映させる時間は不十分であった。ジェンダーに関しては、人によって意識が異なる点を踏まえて課題解決を考えるという視点を獲得するために、全体での意見交換の時間を確保する必要がある。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>ジェンダーに関する基礎的な知識は最終的にはある程度は身につけたものと思われる。今後は、自分の生活の中から問題を発見し解決策を考える力を向上させることが課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学	2	後期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>臨床栄養とは、傷病者のさまざまな病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理を行うことであり、病院で実施される栄養管理は、チーム医療を基盤にして行われるものであることから、看護師として、臨床栄養の基本を理解しておくことは必須である。本科目では、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、全学生の受講動機は『必須科目である』との理由であった。また、学修準備性については、約半数の学生がほとんど準備をせずに受講し、受講後の復習も十分でなかった。また、自発的学習に取り組んだ学生においては、全体の9%と非常に少なかった。いずれの理由においても、学生は多忙を極めていることに加え、他科目の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は86.6(±4.4)点であり、本試験合格者は100%であった。実際には、4名(4%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は108名(96%)にも上った。試験内容としては、全て講義内容からの出題であり、学生の到達度自己評価では、全学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答していたことから、学生の到達度の高さが実際の成績へと結びついたものと推察される。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。入院患者の栄養管理はチーム医療のもとで実施されており、近年、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師の専門性を発揮することが求められている。つまり、患者の生活を視野におかなければならない看護師にとって、臨床栄養の知識は必須であるといえる。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、臨床栄養の知識が看護師にとって必要であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、試験成績においても、学生全員が好成績を修めていたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことに加え、自由記述では『わかりやすかった』等の肯定的意見が多かったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師としての専門性を発揮することのできる能力を養い、臨床栄養管理の実践について理解することを目的としている。学生全員が好成績を修めており、また、学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答していたことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護倫理	2	後期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2年次後期の必修科目である。学生は、1年次の看護学概論、早期看護実習、基礎看護学実習Ⅰ、2年次前期の基礎看護学実習Ⅱなどの科目を履修しているため、看護者の倫理綱領や個人情報保護など、看護実践の場や受け持ち患者の看護をとおして、看護倫理について学習する機会を得ている。本講義は8回であり、学生の既習の学びを確認しながら、「看護倫理に関する基礎的知識」の概説と「看護実践における倫理的課題と対応」について、事例を用いたグループ学習により、理解が深まるように工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、定期試験とレポート、グループ学習により採点した。履修者全員が合格基準に達した。学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標達成」の項目は、「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」の肯定的な回答割合が96%であった。「新たな知識」「事象を理解する視点や考え方」「的確に判断する力を得る」などの項目においても、肯定的な回答割合が96%であった。また、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」については、肯定的な回答割合は97%であり、講義時にこのことについて、何回か強調しておく必要がある。また学生の学習量の評価では、1回に30分程度以上の予習・復習をしない人は約30%であり、シラバスの利用や図書館の利用は約6割という回答であった。以上のことより、学生の学習目標はやや達成されたと考えるが、学生の講義への取り組み姿勢や図書館の利用、学習量について課題であり、今後の工夫が必要である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、知識・理解(DP1-2「看護実践に必要な基本的知識」の修得)、態度(DP4-1「看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる」)の達成を目標としている。学生の到達度自己評価および、試験、レポートなどから、看護実践に必要な看護倫理の基礎知識、倫理的課題、倫理的課題への対応などについての基礎的知識を修得できたと考えられる。また、学生はグループの事例検討で倫理的課題と対応について意見交換し、「今後の看護に求められる倫理」について、レポートに記述することができた。カリキュラムマップにおける位置づけは基礎的な段階であり、内容的に妥当であると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、「説明の理解しやすさ」の項目について肯定的回答割合は88%であった。全員の学生が理解しやすいように説明を工夫する必要がある。また、授業中に3回のグループ学習の講義を導入し、講義最終日の自己評価表の結果では、グループ学習の目標は達成できていた。しかし、学生の授業評価では、「自分の意見をまとめ、話し合う、発表するなど学生が参加する機会がとれていた」の項目は、肯定的回答割合は96%であった。全員がグループ学習に参加して自分の意見をまとめ、話し合う、発表するという認識を持てるように、工夫することが必要である。さらに、学生の予習・復習の学習量が増えるように、学習課題についても検討することが必要である。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>授業の目標は、やや達成できた。今後の課題は、講義時の説明をわかりやすいように工夫すること、学習課題を増やす、講義の目的、グループ学習の目的を強調するなど、授業方法の改善を行うことである。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護方法論	2	後期	必修	いいえ	114

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護の必須科目であり受講動機も99%が必須科目であると回答をしている。学生の準備性としては、本科目への関心は7.3%(7人)と少ない。子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくい学生にとって、健康な子どもも理解しにくい学生がいる中、健康障害をもつ子どもや入院中の子どもの姿はさらに想像しにくいと考えられるため、視聴覚教材の活用をできる限り取り入れた講義内容にしている。また、実際の社会の中での子どもの健康問題に目を向け他者の意見にも耳を傾け自らの意見、考えを発表できる場を取り入れた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>最終的な成績は、平均値は83.6点であり、追試対象者が1名であった。追試対象者は合格している。60点台(可)が1名で、80点以上は91名(秀:15名、優:76名)と約74.5%の学生が理想的レベルに到達していた。成績評価では、知識理解に関して82.2%、思考判断については83.5%が理想的レベルに達していた。方法論では、グループワークを取り入れており、グループメンバーの構成によっては、個人的にはまだ十分思考判断力が付いていなくてもグループの成果物としてのレポート評価が良いために個人の全体評価がやや高くなることも影響していると考えられる。講義後は、わからないところなどの質問を挙手、あるいは毎回配布する質問感想表に書いてもらうことで具体的に学生の疑問に答え、難しいと感じているところわからないところを補足説明をしているが、引き続き学生へのフィードバックを丁寧に行っていく必要があると考える。意欲関心については、学びを深めたいと意欲を持つ学生が多く、この先演習や実習まで持ち続けられるよう繋げていきたい。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方や子どもの成長発達といった特徴を学んだ後、さらに健康障害をもつ子ども達の看護を学ぶための科目となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生は少なかつたが、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から知識理解は82.2%、思考判断は83.5%と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」に対して、少しそうでない名と説明に対する理解が十分できないと思う学生もいることから、ほとんど毎回質問感想表の受け渡しをし、学生の質問には文書あるいは口頭で答えてきたつもりであったが、まだ十分説明の菜一用が理解できていない学生がいるということかもしれないので、出来るだけわかりやすく、説明の仕方も具体的な例や、視聴覚教材、図・表等を用いるなど配付資料の工夫を引き続き検討していきたい。講義形式のみでなく課題を与えグループワークを入れることで、図書館の活用やグループ内での議論から、いろいろな意見・考え方を知ることが出来、学生にとってはいい学びになっていると考える。今年度は参考文献の内少なくとも1つは図書館から利用できる学術データベース(医中誌WEB等)を使った文献検索を指定することで、一度を自分で文献検索を実施できるよう意図的に課題を提示した。それでも約37%の学生がそれらを利用しなかったと答えており、グループの他のメンバーに任せて(分担?)いる現状もまだ見られているため、さらに個人学習としての情報の取り方を含めた意図的な方法をグループワークの進め方に組み込んでいくことも検討したい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の方法論を学ぶ本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については標準的レベルには達成できた。これを理想レベルに上げるため、わかりやすい講義の方法、内容の絞り込み等の検討を行い学生の理解度を上げていきたい。また、適宜確認テスト等を行うことで、知識の理解度を確認し定着できるよう説明の追加等を行っていくことが必要と考える。</p> <p>授業では、病児や入院生活等をイメージしやすいように学生に好評だった視聴覚教材の活用を継続し、また他の学生との話し合いの機会を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を引き続き設けていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護学概論	2	後期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生さんは必修科目であり、国試受験のために必要なため、受講している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は80点以上が、115名の受講生のうち、63名であった。学生さんは「自分なりの目標は達成できた」が、平均3.9、中央値4.0であり、「知識の確認・習得」は平均4.2、中央値4.0であった。尚、図書館の利用が、消極的であり、学習量も不足している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>妥当である。</p>
--	---------------

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>8回で教科書1冊教授することになるので、できるだけ、わかりやすい資料作成、授業でのパワーポイントの利用などをして授業を展開した。また、全体的に前年度成績が不振であったので、授業開始時に毎回5分を前回の授業のポイントや復習にあてた。授業では特に大事なことは大事であること、覚えておくよう述べた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>次年度は8回が余裕をもって講義できるよう、少し、削除する部分を検討したい。テスト結果から、一部の学生が学習不足であると判断する。学習不足の学生さんいかに学習させるかが、課題である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	2	後期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護実践の応用・展開科目であり、3年生で学習する母性看護学演習やその後の母性看護学実習につながる基本となる重要な科目である。そのため、学生が3年生の講義につながっていることを自覚し講義に臨めるように、関連づけて講義内容を説明してきた。</p> <p>講義では、周産期における女性の妊娠分娩産褥各期および新生児期における身体的・心理的・社会的変化を中心に学ぶことになるが、周産期各期の変化は大きく、理解すべき知識や支援方法もかなり多い。そのため、学習の理解が得られることを目指し、今年度は、一部のテーマについて、事前に次回の講義で使用する資料を配布し、学生が予習にとりくめるよう工夫した。その際、教科書のページも示し、事前学習で教科書を活用できるよう意図した。講義資料については、パワーポイントを使用し、資料についても文字だけでなく、写真や図、DVDなどの視聴覚教材を活用し、周産期の母児の経過をイメージ化できるよう工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は76点であった。理想的レベルを概ね70点以上として試験を作成し、理想レベルに達したものは86名であった。再試対象は11名であった。目標別にみると、知識理解70%・思考判断75%であり理想レベルを上回っていた。思考判断に関する問いについては、自分の知識を活用しておこなっている現象について、支援方法や理由を考え、支援内容を問うものであり、周産期にある対象者の実際のイメージ化が難しい学生にとっては理解が難しかったと思われるが、視聴覚教材などを活用したことが効果的であったと考えられ、正解率は昨年よりも向上していた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>必須科目であることから本科目を履修している。応用・展開科目であり、知識理解は目標達成されており、さらに、思考判断については更なる方法的に改善の余地はあるものの、3年生に向けて意識付けはできていると思われ内容的には妥当であると考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業評価では、90%以上の学生が知識理解や思考判断の観点で達成できたとしている。これは、70%以上の学生が予習に取り組んでおり、事前学習資料を準備したことが効果的であったと考える。しかし、再試験者もあり、次年度は新たに講義のなかで小テストを行うことや、これまで取り組んできた資料作成や媒体の工夫を行うことを継続していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>看護の実践の応用・展開科目であり、今後の関連科目につなげて活用していくために必要な基本的な知識理解や思考判断は概ね達成できた。 多くは”必須科目”が受講動機と回答しており、”関心のある内容”と回答した者は6%弱であった。講義に関心を持てることで学習意欲や探求心、学習の理解につながっていくと考えることから、学生たちが関心を持てる講義を提供していくことを課題とする。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人慢性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年生前期科目である「成人・老年看護学概論」を基盤に既習の疾病学や形態機能学など実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。系統別看護学として発展し、具体的な看護実践方法について疾病学と関連させながら健康障害が生体反応として、どのように生活者に影響を及ぼすのか、健康障害のメカニズムと特徴を踏まえ看護について思考・判断ができることを意図している。学生はこれまで実習体験も浅く、疾患と健康障害によるイメージがつきにくいこと、また病態理解も乏しいため、イメージ化が図られ、看護の方向性や疾患の理解の深まりを意図し、具体的に説明を加えながら授業をすすめた。成人急性期看護方法論の進行状況も併せて確認し、授業運営をした。学生には毎回、授業の学びや気づき、質問を記載してもらいたいようにフィードバックした。また領域の特殊性から科目の対象となる範囲も広く、中間評価を行い学生の到達度を確認した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合評価は平均点70.4点で昨年度より8点程度下回った。最高点は87点であり、理想とするレベル(概ね80点以上)は13.3%が到達することが出来たが、限定されている。再試験対象者は12名であった。再試験の結果1名を除く11名は標準レベルに到達することが出来た。到達度自己評価においては平均3.9～4.0であった。授業評価において「まあまあ理解しやすいものであった」が98%と肯定的評価をしている。主体的学習姿勢においてはあらかじめ授業計画を立案したが27.8%いるものの、残り70%は実施できていない。また、予習や復習に時間についても約31%が全くしていない状況である。図書館の利用についても同様の傾向にあり、課題やそれ以外の学修の深まりに関する対応は今後も課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけ</p> <p>本科目は成人期にある慢性疾患を抱えている対象特性の理解から始まる専門科目の看護実践の応用として位置づけられている。必須科目であり、国家試験においても内容を求められるところである。既習の疾患理解や疾患による生活への影響など、状況理解と看護支援の基本的な考え方や具現化でき理解する必要がある。受講動機では資格取得に必要と答えた学生は6.1%(6人)で、興味関心があると答えた学生は2%(2人)であった。3年次から始まる各看護学実習の展開においては基盤となる科目であり、内容や位置づけは妥当と言える。</p> <p>②DP行動目標からみた内容の妥当性</p> <p>本科目の行動目標として慢性病を持つ人とその家族の特徴や日常生活に与える影響、QOLを目指した援助のあり方や、自己の健康管理について述べる事が出来るとしている。これらの「知識・理解」の達成度は69.3%、「思考・判断」が71.4%であった。判断の基盤となる知識の定着と思考・判断は実践応用に向け継続的に強化していくことが課題である。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上のことから内容的妥当性は問題ないが、学生の知識・思考・判断中の達成を継続的に進めていく必要がある。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において「コミュニケーションや表現力を高めることができた」が3.7の評価であった。学生の主体性を促し、「討議」できるような共同学習のあり方と「時間」の確保、またそれに結び付くような学習課題の提示等、一連の課題ついて検討を加えていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は2年生後期科目である「成人・老年看護論」を基盤に系統別看護学として発展したものである。既習の疾病学や形態機能学など実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。看護実践能力の中でも思考・判断が必要とされるため主体的学習姿勢が継続できるように、また思考の方向性を確認しながら演習を取り入れるなどの時間の確保と授業の展開について改善を図りたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人急性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」97.7%、「資格取得に必要である」6.9%、「関心のある内容である」2.3%で、関心のある内容であると回答する学生が少ないことが分かる。</p> <p>②本科目は、形態機能学、疾病各論、臨床検査など既習の科目と関連するため、学生が想起することができるようテスト形式や質問をしながら講義展開を行っている。手術により切除することでおこる機能障害の理解および看護につながるよう講義展開を行っている。</p> <p>③講義では、麻酔後の看護を考える際に、実際の写真、DVDなどの媒体を使用して学生が理解できるように工夫を加えた。また乳がんモデル人形などを使用し、学生が実際に触れて考える機会とした。さらに、家族あるいは知人に乳がんモデルで得た知識をもとに指導体験を行い、理解に繋がるようにしている。</p> <p>②名の教員がオムニバスで展開を行っており、それぞれが課題を提示して学生の理解を深めるように努めている。今回、課題内容を3年次前期の「成人・老年看護学演習」および後期の「成人急性期看護学実習」に活用できるような課題に変更した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目の登録者は116名であった。本試験成績の平均値は、71.7(±10.0)で昨年度より2.0点上昇した。本試の判定では、A判定(90+)3名、B判定(80-89)22名と昨年度の15名に比べて増加していた。C判定(70-79)47名、D判定(60-69)36名、E判定(59-)8名であった。8名の再試験者の内、6名は再試験にて履修したが、2名は放棄であった。標準的レベル(70点以上)に達した学生は62.1%、理想的レベルに達した学生は21.6%であった。</p> <p>②DP観点別の成績は、DP1-2(知識理解)は、39.0/55点(3-51点)で得点率70.9%、DP2-1(思考判断)は、28.3/40点(7-37点)で70.7%、DP3-1(関心意欲)は4.4/5点(0-5点)で87.6%であった。学生は事例をもとに判断をする問いに対しての正答率が悪く、知識を応用して思考するのは難しいようである。</p> <p>③学生の「到達度自己評価」の平均値は3.9(3.8-4.0)で、昨年度よりも良い傾向であった。98.9～100%の学生は「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、11.8～22.6%の学生は「かなりそうだと思う」と回答していた。</p> <p>④授業の質評価の平均値は3.9(3.9-4.0)で、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。昨年度よりも学生が考える到達度は高いものと考えられる。</p> <p>⑤学習量の評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、74.2%・74.2%で、4～6回以上の学生が20.4%・21.5%であった。自由記述から、授業以外の課題以外に具体的に取り組んだ学習は、「復習した」「分からないことを調べた」と自主的に学習する学生もいた。しかし、予習・復習時間をみると0回が25.8%と昨年度よりは少ないものの多くみられた。</p> <p>⑥図書館の図書、雑誌利用率は、69.9%、学術データベース利用率49.9%、インターネット利用率69.9%であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目で、既習の形態機能学、疾病各論、臨床検査などの科目と関連している。既習の知識に繋げながら講義展開を行い、演習や実習を考え、さらに国家試験の出題基準を考慮して講義展開を行っており、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から理想的なレベルに到達した割合が21.6%と昨年度に比べ良い結果であった。また、再試験者および未履修者の大幅な増加なかったことから内容的に妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果より、授業工夫の一定の成果が認められた。次年度も今年度の授業内容を基盤に学生の意見など感が未検討を加える。 ②自由記述にあった「中間テストをしてほしかった」という意見がみられた。急性期看護方法論は範囲も広く、内容も豊富なため、15回でも急性期看護を伝えるのは少ない状況にある。系統別に講義を行っているため、一つの系統を終えた時点でまとめを行うなど工夫をしていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。そのため、急性期特に周手術期の看護について、系統別に講義展開をしている。そのため、範囲が広く、内容も難しいと考えられる。学生の意見として中間テストの希望が聞かれたが、時間的に難しい状況にあるため、系統別にまとめを行うなど工夫をしていきたい。また、既習の知識を想起させながら急性期特に周手術期の看護の理解を深めるためにDVDや事例を用いながら学生がイメージできるように工夫をしていきたい。さらに3年次の演習や実習に応用できることを意識した課題を提示している。課題内容や時期については検討を加えていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
老年看護方法論	2	後期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期に、学生から講義資料をkanameから取り出せるようにしてほしい旨要望があり、初講で意見を聴取、確認し、講義の2週間前を目安にPDFファイルを掲載した。これにより、カラー印刷、予習、復習への便利を感じた学生は多かったように思われる。当該科目では、診療・看護ガイドライン、文献資料が多く、このほか、業者に協力を得てパンフレットを提供していただき、学生個々に配布したりなど、臨地実習においても活用可能な重要な資料を提示し、学修の発展に結びつくもので、過不足はなかったと考える。</p> <p>教科書とプリントを用いて個人で復習できる、教科書を超えて発展的に学習できることを目的に、書き込み式配布資料、教科書、参考資料にそって講義をすすめた。</p> <p>全学生に24時間排泄日誌を作成させ、排泄アセスメントを実践的に学ぶ事が出来た。全体で4回課題提出があり、全てにコメントして遅滞ない時期に返却した。他のテーマはICFモデル、肺炎の要因、褥瘡予防ケアで、資料を見てまとめるなど方法を提示し、能動的学習と発展的に学ぶ体験ができ、臨地実習の準備状態の形成に役立ったと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>定期試験では、平均点81.9±8.9点、不合格者は4名、2名が再試験を受験し合格した。最終的に目標達成度は80%以上の学生は9割以上となった。持ち込み試験であったが、10名は75点未満であり、学修方法に問題があると認識し、3年生の臨地実習指導にあたり、注意を要すると考えている。</p> <p>授業評価では、項目全般に4以上で、1・2の否定的評価がゼロであった。想像以上に教育内容・方法全般が受け入れられていると感じた。2019年度は褥瘡ファントム、膀胱容量計が新規購入されたので、排尿自立支援で、実習技術項目を増やし、なお一層内容の充実が図れると考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>老年看護学において創傷管理技術は現在外せないテーマであるが、本学には褥瘡ファントムがなかったため、血管看護でつながりのあるスミスアンドネフュー社の協力を得て、褥瘡ファントム、局所陰圧療法システムの貸与、消耗品の提供、パンフレット120部の提供を受け、講義内で教員がデモンストレーションを行った。創傷ケアの専門性を紹介する機会を作ることができた。</p> <p>カリキュラム上、老年看護技術を実習する時間に制約があり、2コマを土曜日集中としてABI測定、体圧測定を実習した。携帯型ドップラー血流計は血管看護でつながりのある九州大学薬学研究院より8台の貸与を受け、2台は科研費整備品を利用した。教員3名が担当し、学生はワークシートに沿って実習を進めた。学生は様々な場面を想定し、新しい技術を試み、老年看護に必要な高度な技術を体験できたと考える。</p> <p>臨床での実務や、社会の課題に応じたテーマや方法を選択することは、学生が将来看護師として活動する上での基盤を築く上で重要であり、興味関心、知識理解、態度の形成で貢献できたと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>老年看護学では、既習の基礎看護学とは異なる複雑なアセスメント方法、記述が求められる場面が多く、その詳細を完全に記憶することは困難であるものの、様々なツールや基準を駆使する必要があるため、定期試験は自作のまとめA3紙1枚を持ち込み可として、記述式で行った。まとめ作成にあたり、定期試験1か月以上前に通知し、全ての学生は全回の学習目標に沿ってまとめを作成した。 定期試験不合格者については、改めてまとめ学修を促し、再試験ではほぼ満点に近い状態となり、学修方法の修得に役立ったと考えている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業評価では、項目全般に4以上で、1・2の否定的評価がゼロであった。想像以上に教育内容・方法全般が受け入れられていると感じた。2019年度は褥瘡ファントム、膀胱容量計が新規購入されたので、排尿自立支援で、実習技術項目を増やし、なお一層内容の充実が図れると考える。</p>
------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護学概論	2	後期	必修	いいえ	114

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が99.1%、次に「資格取得に必要である」が6.5%となっている。「関心のある内容である」は5.6%であり、授業内で精神看護に関心を向けて受講できるようにメンタルヘルスに関する身近な話題を取り入れた。 ②本科目は、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎科目である。精神看護は、人との関わりがケアの基本となることを理解し、精神的援助のあり方を強調した。 ③能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について振り返らせ、こころの発達について理解を図った。 ④国家試験対策の一環として、授業毎に国家試験問題を解かせ解説を実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  * 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74点であり、再試対象は5名であった。95.6%が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは28%であった。成績の内訳は、Sが1.8%、Aが26.3%、Bが42%、Cが50%、Dが17.5%であった。学生の到達度自己評価は、3.4～3.9で概ね肯定的な評価であった。そのうち知識・理解における自己評価は3.9、思考・判断に関する項目も3.7であった。授業毎に国家試験対策も兼ねて例題を1問以上解説したことは刺激になってよかったのではないかと考える。レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきている点はよかった。図書館の利用率は62%で、昨年30%に比べると2倍以上になり努力が伺える。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が半数いるのではないかと考える。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。  <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学概論は、看護師として必要な精神看護全般に必要な知識と、精神看護方法論につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神科の専門用語の理解が学生にとって難しいイメージがある。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。国家試験を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から90%以上の学生が標準的レベルに達している。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の平均は3.6であった。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.2で他の項目より低めであった。グループ発表の機会を取り入れているが、もっと参加型の授業の工夫が必要と考える。しかし、学生の学習量は多いとは言えず、全く予習復習をしていない学生、1～2回行った学生を合わせると44%存在するのは問題である。学生の意見として、「時間がない」という意見が出ており、他の科目の課題も重なっているためだと思われるが、学習時間を確保できている学生も多数存在している。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識を学んだうえで、精神保健と精神看護全般の基礎を学ぶ科目である。基礎知識の形成についてはおおむね達成できたと思われる。精神症状のイメージがしづらいことや、専門用語が難解であり、学生にとって理解しづらい科目であったかもしれない。事例を多く取り入れることや、ディスカッションする時間を増やすなどで思考する時間を増やしていきたい。精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本につながっていくため精神科看護に興味関心が高まるような授業内容の検討・改善を行いたい。学生の私語が多く、注意を重ねなくてはならず、まじめに授業を受けようとしている学生に迷惑が掛かった。学生は主体的学習態度で授業に参加してほしい。そのためには課外の学習時間を確保するよう努力することが必要である。</p>
------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護方法論	2	後期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が99.1%、次に「資格取得に必要である」が10.4%となっている。「関心のある内容である」は3.8%であり、授業内で精神科看護に関心を向けて受講できるように工夫が必要と考える。しかし、実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性は持って受講していると思われる。</p> <p>②本科目は、精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を強調した。</p> <p>③精神障害 は、イメージがしにくい視覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージが強調され学生に無駄に恐怖心を与えるため使用せず、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示し、ポジティブなイメージをもつように心がけた。</p> <p>④国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は70.0点であり、昨年の平均と比較すると-4.3低くなっている。再試対象は13名であった。87.9%が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは22名であった。成績の内訳は、Sが3.5%、Aが15.7%、Bが38.3%、Cが30.4%、Dが12.2%であった。</p> <p>学生の到達度自己評価の平均は3.88でほぼ達成されたと思われる。学習量は全くしていないと答えている学生が18%存在する反面、レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきており、図書館の利用は70%以上の学生が利用していた。内容が不足している学生もおり、指導を要した。国家試験に関する課題を組み入れたことで、知識習得に対する自己評価は高かったが、テストの結果に十分つながったとは言えない。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。ポートフォリオで整理させたことは試験対策に役立ったのではないかと考える。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が30%ほどいる。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学方法論は、精神科看護の展開において必要な知識と、3年生の精神看護学演習および精神看護学実習につながる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神疾患を持つ患者の理解が学生にとって難しいようである。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに学習に取り組んでいる。国家試験および実習を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からは、88%の学生が目標を達成した。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していたと推測する。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;  「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>精神看護学概論では何をしようかわからないと言う学生の意見もあったが、方法論では、学習の進め方が具体的に、ノートまとめや疾病学の学習、教科書をよく読むなど、学習に対する姿勢が能動的な方向へ変化してきた。レポート提出期限は全体的に守られていたが、内容が希薄なものもあったので指導を行った。</p> <p>全く予習復習をしていない学生が、一昨年の30%から18%に減ったのはよい傾向であり、学習習慣が身に付いてきていると考える。全体的に学習量は多いとは言えず、更なる主体的な学習を期待する。授業以外の学習に取り組んでいない理由として、「課題が多い」「時間がない」という意見が出ているが、個人差があると考え。授業以外に学習に取り組んだ学生は、「予習・復習、テキストをしっかりと読む、調べる」などできている。他の科目との課題の調整が必要であれば行っていきたい。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識と、精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本を学ぶ科目である。本科目の知識は、3年生の演習、実習の基本になるため、精神科看護に必要な基礎的知識の理解、思考の理解が望まれる。近年のストレス社会において、精神疾患を持つ人が増えており、教授すべき内容も増えた。知識が十分ではない学生、思考の整理が不十分な学生も多々存在するため、3年時の精神看護学演習でそれらを補えるようにしなくてはならない。国家試験を意識させた方が学生も真剣に取り組む傾向にあるが、知識に偏ることなく、精神障害を持つ人の気持ちに寄り添い、看護の応用・展開につながるようにしなくてはならないと考える。学習の基本が身に付いていない学生に対して教科書をよく読む、自分でノート整理を行うなど基本が必要と考え、課題として実施したが困難な学生も数人おり今後の課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護基礎マネジメント論	2	後期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は必修科目ですが、大学2年生にとって、看護マネジメントとはイメージを付けにくい無形サービスであり、わかりにくい授業でもある。このためまずは日本が抱える医療や社会保障の問題から授業を開始し、その後病院組織とは何かやその役割に移行し、病院の中での看護の役割と求められる成果へと講義内容を進め、看護マネジメントの基礎知識の修得を図った。次にこの科目の中で、医療安全も教授しなくてはならない、今までは「医療安全」のテキストは購入していなかったが、国家試験にも多く出題されるようになってきたため、今年度より「看護管理」と「医療安全」の両テキストを購入してもらい学習を進めるようにした。医療安全の学習に関しては、臨床現場で活用されているKYT(危険予知トレーニング)を導入し、グループワークを行いながら、医療事故が発生するメカニズムの理解を図った。そして最後に、看護学生が新人看護師として各施設に就職した直後より、彼らは患者の療養環境の看護マネジメントを実施することを求められるため、最後の授業は看護演習室で、療養環境の看護マネジメントを思考するアクティブラーニングを導入した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の達成度評価は、試験:70%、レポート等、演習で30%による総合評価としている。最終成績の平均値は73.43±6.57点(最高90点、最低61点)であった。成績の内訳は、秀1名(1%)、優24名(21.2%)、良54名(47.8%)、可34名(30%)、不可0名(0%)であった。学生による授業評価では、「自分なりの目標を達成した」(4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.2)等、すべての達成度自己評価において4.0以上であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度の自己評価より、学生は看護の専門分野において、課題を検討する力の取得、的確な判断力、意欲や技術の習得、コミュニケーション力、ルール遵守、職業選択において、すべて4.0以上であった。また自由意見より、調べ学習や予習復習を行ったともあり、専門科目として知識の定着面、思考面において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の全ての項目が4.3または4.4点であった。予習復習をしていない学生は全体の1割程度で、ほとんどの学生は30分以上の予習・復習を行っている。また約半数の学生が図書館等の利用・活用を行っていた。さらに学生からの意見も特になかったため、基本的には、次年度も今回の方法を継続していきたいと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>学生による授業評価としては、すべての項目で4.0点以上であった。全体の評価点の平均も73.43±6.57点で不可となり再試験を受けた学生もいなかった。担当教員への意見も改善を求める意見はなく、シラバスに則った授業の目標は概ね達成できたと考える。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康危機管理論	2	後期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2年生後期の科目である。学生の受講動機はほとんどの学生が「必修科目である」を選択している。「関心のある科目である」を選択している学生は、6名(6.2%)と少ない。</p> <p>本科目は1単位であるが、昨今の日本の状況から国民が健康危機に遭遇する事象が数多くみられる。そのため、それらの事象を取り上げながら、看護職としてどのように考え、対応すべきスキルの必要性について理解を求める。授業開始当初は、災害当事者として事象を捉えていくが、授業進行とともに看護専門職支援者としての立場で思考できるように段階を踏んでいく講義を計画している。</p> <p>毎時の授業コメントにおいて、授業の理解状況の中から、学生の態度を変化を捉え、授業方法の微調整を行っているが、本年度の学生は、看護専門職としての立場で事象の学習ができていると判断できる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、82.8点であり、再試対象者は1名であった。標準的レベルに達した学生が99.1%であり、内、理想的レベルに達した者は68.8%であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては89.1%、意欲・関心に関しては67.9%、態度に関しては67.9%であった。成績平均値及び知識理解の獲得率を前年度と比較すると、上昇しているが、授業コメント及び意欲・関心、態度では同程度である。</p> <p>学生の到達度自己評価においては、全項目において「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している学生が9割みられる。項目の平均値は、3.6～4.2点と前年度と同程度の評価である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門基礎科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況であるが、本科目は、履修学年は2年後期であることから、授業目標を達成するために低学年の学習内容にあわせ、授業内容および方法の検討を行い、計画したものである。結果、最終成績評価からみた場合、概ね目標を達成できていると判断できる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価において、半数の学生が予習・復習を実施していない。具体的な課題提供を明示しないと行動に結びつきにくい状況がみられる。本科目は、健康危機管理事象において、社会的関心を向け、看護専門職としての活動内容について講義していくものである。国内外の事象についての話題提供について、学生が主体的に行動し、今後、学修に取り組む仕組みとして、災害地におけるボランティア活動等との体験を語り合う授業に取り組むことを検討したいと考える。 授業の質評価においては、前年度全項目平均点3.5～3.9点であったが本年度3.9～4.1点となり、概ね理解されている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 本科目は、来年度より新カリキュラムとして、新たな科目として構成される科目となる。日本の現状として、健康危機管理は必須の課題であるため、看護職として基礎教育の中で重要な意味を持つことを教員として認識し、今後も取り組んでいく必要がある。</p>
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年間の学びの集大成と位置づけた「看護総合実習」準備のための科目であり、学生は3年後期の段階で、各ゼミ概要をふまえて、自身の関心をもとに所属したいゼミを選択・希望する。従って、受け入れ側教員は、配置された学生は、自らの意思でゼミを選択したものと解釈する。しかし、実際には学生の希望にそわない配置もあり得る。 今回担当した学生5名の受講動機は、「必修科目である」(100%)であった。5名中4名はシラバスの記載を参考にゼミを選択、5名全員が「あらかじめ授業の計画を立てた」と回答していたが、「シラバスに沿って授業を受ける計画を立てた」者、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」者はいずれも1名と少なく、学生の自発性、自主性という点では学ぶ姿勢そのものが十分整えられてはいなかったと考えている。次年度に向けては、初回オリエンテーションやゼミ導入の在り方を検討・改善し、学習に対する内発的動機づけの強化を図り、「意欲関心」の向上につなげたい。 当該授業の中心はグループ学習活動にある。従って、基本的には学生の「調べ学習」に依るところが大きい。図書館利用について、「無回答」の1名を除き、他4名は、図書館、インターネット等を積極的に利活用し、「看護総合実習」に向けた学習準備に取り組んでいたと考える。一方、「無回答」の学生1名については、ゼミメンバーの一人として必要な知識をどのように獲得し、課題にどのように取り組んでいたのか、何を論拠に学習を進めていたのか、グループ学習活動への参加度・貢献度はどうだったかという点で、他との違いを感じる場面が多かった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の学習到達度の自己評価については、DPそれぞれに繋がる(1)から(10)の項目のうち、「自分なりの目標を達成した」(4.0)、「職業選択の参考になった」(3.0)以外の8項目は平均値が中央値を上回っていた。しかし、全てについて、学部および学科平均値より低値であった。 当該科目の中心はグループ学習活動であり、その評価は、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)及び技能表現(DP5)による。具体的評価割合は、看護総合実習事前準備としての個人の「調べ学習」の成果;レポート(50%)、グループ学習後の口頭発表や個々のプレゼンテーション力(20%)、実習終了後の報告書等の作成(10%)、および基礎看護技術演習への参加度・貢献度(20%)としている。担当学生5名の全体的傾向として、学びへの積極性・主体性という点で、当該科目に続く「看護総合実習」とも併せて、学習準備はもとより、各学びの深さという点でも、昨年度を超える成果には至らなかった。結果として、学生5名の最終評価は76.8±5.23(84.6±3.96)点、最高82(92)点、最低73(80)点で、昨年度を大きく下回っていた。評価の内訳は優3名、良2名で、科目履修者全員が履修を修了した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は全員「必修科目である」(100%)であった。学習到達度の自己評価は、DPそれぞれに繋がる(1)～(10)の項目のうち、「自分なりの目標を達成した」(4.0)、「職業選択の参考になった」(3.0)以外の8項目は平均値が中央値を上回っていたが、全てにおいて学部、学科の平均値より低値であった。わずかに(1)「自分なりの目標を達成した」(4.0)のみが学科平均を上回ったのみで、他の9項目は、いずれも学科平均値より低かった。 「看護管理」という観点での学習として、果して興味・関心をもって学べていたのか、学生の授業評価からの読み取りは難しく、全体を通して、学生は概ね目標を「達成できた」と判断しているが、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)についての担当教員としての達成感は低く「どちらともいえない」と判断した。 当該科目の成績評価は、個人の「調べ学習」の成果;レポート(50%)、グループ学習後の口頭発表や個々のプレゼンテーション力(20%)、実習終了後の報告書等の作成(10%)、および基礎看護技術演習への参加度・貢献度(20%)を総合的に評価した結果としている。今年度担当したゼミ学生5名の最終評価は、76.8(±5.23)点(最高82点、最低73点)、成績の内訳は優2名、良3名とした。従って、内容的妥当性は標準レベルにあり、担保されていると判断した。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>4年前期開講の授業では、メンバーの一部が各論実習進行中であるため、学生状況に応じた変則的スケジュールで行っている。学生は、概ね7月末の完成を目標に「看護総合実習」へと繋ぐ学修準備を進めることになる。この間に、基本看護技術の振り返りと基礎的知識・技術の振り返りと定着化を図る目的で、数年前より、1年生の「看護技術論」(前期)、「生活援助技術論演習」(後期)、「フィジカルアセスメント技術演習」(後期)、さらに2年生「診療関連技術論演習」の各授業と本授業をリンクさせ、10～11月までの期間を限って、4年生にSA (Student Assistant) を依頼し、1年生への看護技術指導を依頼・実施している。</p> <p>1年生にとっては、身近な4年生を先生役として直接指導を受けることで、些細な疑問でも聞きやすく、また「同じ苦労」を味わってきた経験から、困ったり悩んだりする点も共通する先輩との関わりの中で、看護技術習得への関心・意欲の高まり、技術演習への積極的参加など、姿勢の変化に繋がっていた。4年生についても、他者に「教える」という体験を通して、最終学年であることの自覚や自らの知識・技術の振り返り、また、より深い知識獲得の機会となっていた。100名を超える1年生に看護の基本技術を確実に習得させることは容易ではない。こうして4年生の力を効果的に取り入れることで、1年生、4年生の双方にとって、関心意欲の高揚に繋がっていた。何より、1年生へ刺激は大きく、4年生の先輩の姿に、自分自身のこれから、4年後の自らが目指すべき姿を具体的に思い描けたようであった。また、主体的学習者としての4年生の姿勢の変化にも多少は繋がっていたように思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本授業を通して達成すべき学習目標について、学生は到達度自己評価を「自分なりに達成した」(4.0)としていたこと、および最終成績評価の平均点(76.8点)から、標準レベル相当の到達度であったと判断し、「やや達成された」とした。</p> <p>次年度に向けては、以下①～④を課題として取り組みたい。</p> <p>①今年度、全体的に「学習活動が低迷し、学びの深化・発展が見えづらい」との印象を持った最近の学生事情をふまえた学生個々への指導の在り方・意欲関心の引き出し方</p> <p>②「看護総合実習」の準備学習として不可欠な「調べ学習」に主体的かつ効果的に取り組ませるための方策</p> <p>③学生の「思考・判断」を強化する目的でのグループ学習活動において、円滑なコミュニケーション、メンバー間の情報共有、チームワーク、協力・連携する大切さへの気づき、他者への気遣い・配慮・思いやりなど、DP4(態度)に繋がる学習姿勢や学習態度の育成</p> <p>④グループ学習を通しての学びの深化を「面白い」と感じることで主体的学習者としてのレディネスの整えと最終学年生としての自覚の促し、など。</p> <p>具体的にどのように支援すれば、学生の到達度自己評価とともに教員側のモチベーションの維持・向上につながられるのか、次年度に向けての検討課題とし、改善・向上を図りたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の必修科目として位置づけられている。学生はこれまでの既習の知識や技術の統合を図りながら、自己の課題の明確化と課題達成のための方法を検討し、実習計画を立案する。また、総合実習終了後には成果としてまとめ、看護に対する考察を深める。この間グループメンバーとディスカッションし、メンバー間で共有し合うことで、看護観や人間観、死生観の深まりを期待する。最終的に要約としてまとめ、自己の課題達成状況を明らかにする。一連の学修から、看護職としての専門性や実践者としての在り方についても広く主体的な修得を目指す。学生個々の課題や背景、そして進捗状況も違うことから、個別的関わりを持ち、方向づけと時間的配慮も行った。そして、計画立案、実践を言葉に置き換え概念化し、まとめあげるという過程において、学生自身の達成感が持てるように関わった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>グループ6名の学生の到達状況は、平均点83点であった。全員80点台で到達度においては高く、主体的な学びが出来たとと言える。到達度自己評価では平均4.37であり、高い評価を得ている。特に「専門分野の知識や学びの深まり」や「学びを深めたい意欲」などの項目評価が高い到達度を示している。自己の課題解決に向けた取り組みや、先行文献検索を実践に活用することについては十分とは言えないが、図書館の利用や情報検索は全員が行い主体的な学びを実践している。自ら探求する姿勢や根拠をもとに立証していく過程、また現象を要約し、概念化していく段階を経験することにより、学びを深めたいという意欲の向上につなげたとと言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP上に位置づけ</p> <p>看護総合演習は、看護総合実習の事前事後学習として位置づけられている。学生の希望により領域が選択され、自己の課題はこれまでの学修状況にも影響を受ける。自己の課題の明確化から始まる演習は学生の個々の重要な学びのプロセスと考えている。一定の評価を得たことから内容的妥当性に問題ないと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ</p> <p>本科目は既習の学修を統合し、看護実践能力を高め、今後も専門職として主体的に看護を探求する動き付けとなる科目である。成績評価、学習態度、等 概ね良好であったことからCP、カリキュラム上から内容的妥当性には問題はないと考える。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上のことから内容的妥当性については問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>この演習は自己の課題を明確化することから始まるため、授業の進め方は学生個々の進捗状況を確認し、グループメンバーの時間共有と情報交換、また個別的課題への問題解決に向けた助言など、学生の状況を把握しながら進めた。学生の個人差はあるものの、個人やグループ面接、グループ討議を通じ、その都度理解を得ながら個別対応により進めることができた。、文献検索等は時間もかかるが、授業を受けるための準備や復習時間を全員の学生が計画的に費やしており、演習に臨んでいる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の必須科目である。これまでの集大成ともいえる科目である。グループ全員が、看護職を目指しており、看護の対象である「人」に興味をもち、そして向き合い、指導者の助言を受けながら、各自の課題に取り組むことができた。現象を概念化し、論文的にまとめるプロセスにおいては学生の取り組みにばらつきがみられたが、個別に対応することで、ほぼ達成できた。一連の学修から、看護職としての専門性や実践者としてのステップが踏めるように、計画性を持ち、個別の課題に深く向き合い授業運営を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護実践及び専門領域上の自己の課題を探求するために、主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題への適切な介入の方法を討議・検討し、実習計画を立案する。看護総合演習での成果を基に、レポートを作成し、実習における実践を考察するものである。そのため、学生個々の課題への達成感を得るために学習段階を学生自身が実感しながら、主体的学習が進むための学習支援を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は、91.1(89.1)点であり、全員が理想的レベルに達した。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては87.5(84.4)％、意欲・関心に関しては99.9(100)％、態度に関しては100(100)％であった。</p> <p>学生の到達度自己評価においては、4.4から4.8(3.9から4.1)となっている。</p> <p>昨年度(2017年度)の評価と比較して、多くの項目で上昇している。少人数の演習であるため、学生が主体的に学習していく、エンパワメントが機能した結果ともいえる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門教育科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況である。本科目は、最終履修学年である4年であることから、まさに学習の集大成と位置付けられる。結果、最終成績評価からみた場合、目標を達成できていると判断でき、看護への新たな目標を学生自身が確認できたのではないかと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>科目が開始した4月～5月の段階では、学生自身がどのように学習を進めていけばいいのか模索している状況が見られた。そのため、「何をしたらいいのか」と具体的方法を探すことに目が行きがちな学生に、文献学習の期間に費やし、議論を進めるための基盤づくりを徹底した。そのことにより、学生自身が看護総合実習で何を学習する意義を見出すか明確となり、実習を意欲的に実施することができ、達成感を得ることに繋がった。また、基盤づくりの準備状況が実習指導者にも評価されることにより、専門職としての意識を高めることにも繋がった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>今年度も学習段階を踏みながら、基盤づくりのための文献講読に十分な時間をかけたことにより、その後の展開は、学生の主体的学習を可能とした。看護総合実習におけるこれらの教育展開が他の学生にも可能であるか、今後検討していくことが必要である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>毎年、本科目については学生の選択により基本的に小児看護およびその関連領域に将来就職を希望する学生が受講するが、講師以上の看護師資格を有する教員全員で担当するため、均等な配分を配慮して毎回第1希望でない学生も含まれるのが現状である。今回6名を担当したが全員受講動機は必須科目だからと言うことで関心のある内容であると答えた学生はいなかった。受講者が決まった後早い時期に個人面談をして学生の受講理由や将来計画等も確認し、演習・実習が卒後のキャリア支援に繋がるよう科目への取り組み方をともに考え、小児看護領域にも興味関心が持て自主的に取り組めるよう工夫した。また、3年次の「看護研究の基礎」を含め、レポートの書き方は学んできているはずだが文献を使って根拠を持ったレポートをきちんと書ける学生は少ないのが現状である。そこでまずは、卒後の研究的態度にも繋げられるように4月に図書館の方からの文献検索の講義を今年度も計画した。看護研究演習を履修していない学生がほとんどであり、自分の関心領域についてのテーマを絞り、文献を使った看護の考察ができるように計画をした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>6名の最終成績は平均84.8点であった。総合実習がNICU・GCUでの実習あるいは小児救急センターどちらかでの実習が主になるため、それぞれの実習に向けて演習内容も自主的に計画し実践していた。同時に実習での個々のテーマを決め文献検討を主としたレポート作成を行った。レポートは、文献を読み込み根拠を元に自分の考えをまとめることをわかり始めたところである。到達度自己評価では、各々3.7から4.3と概ね知識や技術等を得ることができていると評価している。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の到達度自己評価によると「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4. 0、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」4. 2、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」4. 3であったことから、内容的妥当性はあったと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>毎年、5、6月に残っている領域別実習を踏まえて演習計画を立てている。卒論がない学生にとって、自分自身の関心領域に課題を見つけそのことを文献検討を通して考えまとめる作業を演習を通して実践できるよう、4月のうちに図書館の方の協力を得て文献検索の講義をしていただき、文献の読み方を皆で検討できるようにした。しかし、この後の個々の進め方には、就職試験、インターンシップや臨地実習施設との事前打ち合わせなどが入り込んでくるため、個人差が出てくるのが現状である。理想的なレベルには達していない学生もあるが、研究的態度、文献検索のやり方、文献の読み方、活用の仕方が身についていけば、卒後の実践につながるものとする。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>看護総合実習に向けた事前準備として演習を組んでいるが、実習施設が多く、前年度の4施設からより1施設減らしたとはいえ、小児で与えられた9日間で3施設の実習準備は、やはり学生にとっては負担となっている。反面、今までこのような施設があったことを知らなかったし、子育てを支援する上で貴重な経験であったと、このままの実習を継続して欲しいとの希望もあり、個々の実習施設での学びは貴重なものであることは理解できるが、限られた時間での実習であるため引き続き実習内容について検討をしていきたい。なお、昨年度から、遠方にある小児専門病院での2日間の実習を1日の見学実習にかえたことで、主となる実習施設での学びを深めることができるようになっており、事前準備も焦点を当てやすくなったと考える。しかし一方で、受け身の学生が増える可能性もあり、実習意図を明確にして実習に臨むよう事前の準備が大切になると考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>看護総合実習の事前、事後の演習として位置づけられた演習科目である。前期に基本的知識の確認及び抄読会を実施し、実習テーマの設定、実習計画書の作成を行う。産業看護領域における企業及び健診センターの保健師活動について実践力を修得する。演習では、企業特性を理解するために、工場見学などを行い、実習前に施設特性の理解を深める工夫を行った。また、実習指導者と連絡を取り合い、学生が実践可能な保健指導や企業診断などについて施設側との調整に配慮した。また、学生がテーマに沿って実習計画を立案できよう、施設ごとに別途ゼミを開講して対応した。学生は、公衆衛生看護学実習(保健師実習)を終えていたが、受講動機では、「必修科目である」100%であったが、「関心のある内容である」はなかった。学生が本科目への関心を高め、看護総合実習の学修準備性を高めることができるよう、学生が保健師実習を通して学んだ内容を想起し、本科目とのつながりを意識して、看護総合実習テーマを設定できるよう配慮した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終評価となるレポート(平均値85点)では、文献を活用して看護総合実習で計画した看護技術に関する文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。また、演習への参加態度も良好であった。以上より、全項目で「達成した」と考えられる。当該科目の履修者は8名と少数であるため、評価は中央値と5段階評価の構成割合を示した。</p> <p>達成度自己評価では、最も高かったのは「事象を理解する視点や考え方を得ることができた。」(平均値4.6、中央値5.0)であった。他項目でも、全て「⑤かなりそうだと思う」「④わりにそう思う」と回答しており、客観的評価と一致していた。殆どの学生が「図書館利用やデータベース及びインターネットを活用していた。」</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機では「必修科目である」こと、学習到達度はいずれも4.3以上であることから、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて、内容的妥当性はある</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に          単にお示しください。          また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し          ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;          「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、          インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では平均4.4と前年度より改善した。前年度に4.0を下回っていたため、第1回オリ          エンテーション時にレポート評価、提出物の評価について具体的に評価基準を示すこと、また学生との確認が必要であると考え、工夫したことが、改善につなが          ったと考えられる。それ以外の項目のいずれも、前年度よりポイントは改善していた。演習計画の説明を具体的に提示し、また、個々の達成状況に応じて、質問を受けて          丁寧な指導を心掛けたことによって、一定の成果がみられたと考えられる。自由記載では、課題以外の学修では、実習の準備に取り組んだと回答しており、「学修          のための情報利用」「図書館、インターネットの利用」は100%であったことなどから、今後は学生の自主的な取り組みの内容をフィードバックしていくよう配慮したいと          考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成度、授業の質評価及び学習量の評価は、全体的に前年度より改善していた。          また、新規実習施設では、保健指導と健康教育媒体作成を行ったが、授業教材として使用できるほどの出来栄であった。実習施設からも高い評価をいただき、学          生の達成感や自信につながっているのではないかと考えられる。          次年度は、卒業後の学会発表を想定してポスター発表を行い、プレゼンテーション力を強化することが課題である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は4年生前期、必修科目である。5名の学生を担当した。受講動機は、「必修科目である」100%であった。ほとんどの学生は急性期看護を第一希望していたが、受講動機は必修科目と回答が多かった。</p> <p>②看護総合演習は、看護総合実習の準備および事後の発表を行う科目である。今年度の希望部署は、消化器外科1名、呼吸器外科1名、循環器外科2名、手術室1名であった。計画書に必要な論文検索および論文抄読、実習目的にそった事前課題の準備および成果発表、実習に必要な基本的な技術の習得(清潔の援助技術、観察技術、心電図、輸液演習など)、手術直後の観察演習の模擬患者役を通して患者体験および観察視点の復習を行い、実習に向けての知識および技術の習得を行った。</p> <p>③看護総合実習計画書作成指導を行い、学生が主体になり、実習の目的を達成するための支援を行い、目的に応じた計画を立案できるようにした。</p> <p>④看護総合実習後に実習をとおして、ケースレポートの作成を行うために、基本的な論文作成の説明および記載方法を指導した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①総合評価の平均値は、平均値80.4(±7.3)だった。全員が理想的なレベルに達していた。その理由としては、実習前の事前課題は、実習中に使用することができる内容であったこと、実習をとおしてケースレポート作成に必要な情報を十分得ることができていたこと、その情報をもとに目的にそった考察を行い、自己の看護観を述べるようになってきたと評価することができたためである。学習に際して、図書館の利用率も高くみられた。</p> <p>②DP観点別の成績は、いずれも高く、知識理解46.2/60点(得点率77%)、関心意欲17.1/20点(得点率85.5%)、17.1/20点(得点率85.5%)と、全員が理想的なレベル(80点以上)に到達した。</p> <p>③学生の到達度の平均値は4.4であった。</p> <p>④授業の質評価の平均値は4.5で、授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られた4.6、口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、それに答える機会が作られていた4.6であった。</p> <p>⑤自由記述から、「図書館で資料や研究論文を探した」「自己学習をした」と回答しており、図書館の図書・雑誌利用、学術データベース利用およびインターネットの利用は100%であった。学習量の評価では、1回30分程度以上の準備・復習を全ての学生がしており、6回以上の学生は60%であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をとおして、急性期看護について深めたいと考えて受講しており、自分の目的を達成するために実習計画書を作成することができていた。学生の到達度自己評価をみると、4.4であった。学生は実習に向けての目的のために事前学習および技術演習に取り組むことができていたことから、内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断は達成度がやや低いが、計画立案は目的を明確にすることができており、目標にそった実習をとおして得られた情報をもとにケースレポートを研究論文の書き方で記載することができていた。さらに自己の看護観を見いだすことができていたことを踏まえて、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価においては、平均4.6点であった。 演習中は発表を取り入れるなど、学生の成果を共有するように努めた。消化器外科、胸部外科、心臓外科、手術室での実習を行ったが、異なる部署における看護についての知識の共有に繋がったと考える。 今後も、知識のみではなく技術を取り入れ、学生が主体的に学習することができるようにしていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をとおして、急性期看護について深めることを希望して受講している。既習の知識・技術を活かして、各自で計画書を作成して実習を行い、さらに実習の成果をレポートとして論文形式で作成することができており、概ね達成できたと考える。 しかし、今後は急性期看護を第一希望としていない学生も含まれることが考えられるため、学生の希望理由を把握して、学生が急性期看護を深めることができるように指導を行ってきたい。 本科目は看護総合実習の準備および実習後のレポート作成指導に重点をおき、急性期看護について深めるための支援を行っていただくだけではなく、この時期は就職試験や国家試験へ向けての時期でもある。そのため科目履修の支援だけではなく、学生の就職活動や国家試験へ向けての生活に根差した指導を行ってきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>テーマの選定や情報検索については、学生の興味・関心に沿い、それぞれのペースで進めることができたことはよかったと思われる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度から始めた実習後の発表会、報告書集の製本、実習施設への報告は、学生にとっても、実習施設にとっても学習成果を確認できるもので効果的であった。全員をAとしたが、成果物や看護実践の質には努力の余地があった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生それぞれが自身で作成した実習計画を実践できたことの満足感や達成感は、実習が終わり、まとめ、発表会を経て高まった。3年生の学内演習での補助に参加することで、他者への指導を通して、自己の成長を感じることができていた。大学生生活の学びの集大成として、能動的な学習活動、他の学修者の支援、学修成果のまとめと発表、実習施設との調整や患者の看護の自律した実践を通して、社会人としての基礎力が獲得されたと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>総合看護学演習、実習の進め方の段取りが不案内ながらも、学生と協力して進めることができ たが、年度の進行等を考慮すれば、実習時期や進め方など次年度の計画で改善したい ところが明確になった。 学生は、図書館やインターネット、データベースを利用して個々の課題に沿って情報検索 をした。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>実習時期を8月末から9月であったことを、7月末から8月とし、前期の計画的な総合演習の準備、 学生の夏季休暇期間中の国家試験対策に向けた生活管理ができるように、実習施設とも調整した。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生は3年次からの各領域の看護実習が継続している段階である。このため一人の看護師としての視点で物事を思考する傾向にある。よって「看護総合実習:看護管理」を学ぶにあたっては、看護マネジメントとは何か、組織とは何か、病院・看護の役割とは何か、チーム医療の必要性等から思考がズレないように調整することに注意した。また学生のスケジュールを考慮し、1週間に1回程度は集まりゼミを開催し、意見交換を図りながら実習計画書立案の支援を行った。学生は8月上旬に、実習先の大学病院の管理者に実習計画をプレゼンテーションを行うため、これが成功体験となるように、褒めることを基本にしながら支援を行った。学生は4年生となり、看護管理の重要性は明確ではないが理解していたため、準備は整っていたと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生は4月～8月まで、各論実習、就職活動等との調整を図りながらも、看護管理の実習を大学病院で行うため、「医療安全管理」「感染防止管理」「入院支援」「退院支援」「緩和ケア」「病棟運営」という、新たな学習を積極的に継続した、週に1回程度はゼミを開催し、その間、分担をしながら自己の課題を実践し準備を整えていた。図書館等も全員が利用し、週に4回以上予習・復習を行っている。これによって、8月上旬の実習計画のプレゼンテーションにおいては、全員が指定時間内に発表を行い、施設の管理者からの質問にも答えることができた。実習計画の修正も期日までに行うことができ、実習予定日より実習を開始することができた。総合演習・総合実習の総合得点は平均83.3点(最高90点、最低73点)であった。学生による授業評価では、「自分なりの目標を達成した」(3.3)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(3.8)であった。学生は実習終了後は、約1か月間の中で、小田ゼミと合同で行う発表会のための報告用スライドを作成するとともに、その後は約3000字の報告書を記載した。以上より達成されたと判断した。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度の自己評価では、看護の専門分野において、課題を検討する力の取得、的確な判断力、技術の習得、ルール遵守、職業選択において、全員がそうだとと思うと評価し3.7点前後であった。学生は、卒業し看護師として就職したときから、看護マネジメントを行う一員となる。このため病院と調整を図り、看護師がチーム内に存在し、看護マネジメントとして重要な部署として「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「緩和ケアセンター」「病棟」を抽出し学習と実習を行った。、よって専門科目として知識の定着面、思考面において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>週に1回は、2コマ程度のゼミを開催し、学生と意見交換等を行いながら学習支援を行った。また実習後も発表用スライド作成、実習報告書作成の支援も行った。またゼミで国家試験対策も最後まで継続した。これによって、学生は看護管理の理解を深めることができたと考える。全員が国家試験にも合格した。学習の質評価においても3.7～4.2点の評価で、特に学生からの意見はなかったため、今後も1年を通して、学生を支援していきたいと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生による授業の質評価では、3.7～4.2点以上であった。学生は「医療安全管理」「感染防止管理」「入院支援」「退院支援」「緩和ケア」「病棟運営」という、新たな学習を継続し、週に1回程度はゼミを開催し課題に取り組んだ。図書館等も全員が利用し、週に4回以上予習・復習を行い、演習・実習の総合得点は平均83.3点(最高90点、最低73点)であった。学生による授業評価では、「自分なりの目標を達成した」(3.3)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(3.8)が高値で、実習後も発表会用スライド作成、実習報告書作成まで実施した。以上より達成されたと判断する。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>看護総合演習では、</p> <p>①専門領域における自己の課題を明確にし、実習の目的を明らかにした。その目的にそって文献を検索させ、実習動機をまとめる作業を行う。と同時にタイムスケジュールを立てるよう指導する</p> <p>②実習動機をまとめた後、どのような実習を実施したいかが明らかとなってくるため、並行して事前学習を進めながら、行動目標を作成するよう指導した。</p> <p>③実習期間7日間の実習方法と内容を実習目的・行動目標を考えながら作成させた。</p> <p>技術演習として、挿管時の看護・12誘導心電図の装着・モニター心電図の装着・輸液ポンプの使用法・挿管チューブの固定方法を実技練習する(事前学習をさせ、当日は学生に実践させ、さらに質問をする形で進める)。清潔援助については、実習前に学生が自己練習を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	やや達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均点は82点、A判定(90+)0名、B判定(80-89)5名であり、全員が標準的レベルに達したと判断する。目標別にみると、思考判断84%、関心意欲72%、態度は90%であった。全体的に真面目に取り組む姿勢が見られ、目標達成に反映された。</p> <p>学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は4.0-4.2に推移しており、すべての項目において、全ての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。</p> <p>5名全員が、図書館の利用・インターネットによる文献検索・インターネットの利用をしたと回答しており、新たな情報を取り入れながらの学びは、目標達成に反映されたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、4年間の集大成ともいえる科目である。学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価では、思考判断84%、関心意欲72%、態度は90%であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、5名全員目標を達成したと考えられており、平均点の82点から考えても、内容的には妥当であったと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では、全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」と回答しており、平均値も4.2であり、概ね説明は分かりやすく質問に対する対応もできていたと考える。</p> <p>ほとんどの学生が、図書館や学術データベース、CiNiiを利用しレポート作成に取り組むことができている。検索方法について、資料を配布し、さらに口頭で全員に説明したことが、全ての学生の利用につながったと考えられる。今後も、口頭説明だけでなく資料を配布し、利用方法についていつでも振り返ることができるよう配慮していくこととする。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>目標については、概ね達成できたと考える。</p> <p>今年度も、1名のみであるが、看護総合実習を終えてから、レポートをまとめるにあたり必要な情報が不足している学生が存在した。実習計画書作成に時間を要し、実習レポートのアウトラインが曖昧なまま、実習日を迎えた学生である。</p> <p>次年度は、全員の学生が実習前に、レポートのアウトラインを考えることができるよう、個々の学習レベルを考えながら時間調整し、指導していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられている。今回の受講動機をみると、「必修科目である」が16.7%で、「資格取得に必要である」が100%であった。学生は、この科目について、必修科目や資格取得に必要と認識し受講している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績としては、86.7点(±5.5)であり、全員が「優」もしくは「秀」の成績であった。目標別にみる達成度(達成レベルを80%とする)は、思考判断が85.1%、関心意欲が87.1%、態度が89.11%で、DPとしては達成していると考えられる。学生の到達度自己評価は、全ての項目で平均値が4.6であった(看護学科平均値4.0～4.2)。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられた必修科目である。学生が十分な成績を収めていることから、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP,行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から、すべての項目が達成されている。内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>この授業、「授業の質」に対する学生の評価は、4.6～4.7であった(看護学科4.1～4.2)。 学生の「学習量」は、準備および復習ともに4回から～6回行っていた。 学生の「情報利用」のシラバスは全員活用していたが、学生の中には、計画を立てていない学生がいたためその点は検討したい。 学生の「図書館の利用」については学生はレポートを作成するために、図書やデータベースやインターネットなど全ての項目で全員が活用していた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられ、総括的な科目である。今年度は、3年次の「看護研究の基礎」の講義を確認しながら進めた。また、各学生のレポート作成の支援は、各学生の実習時期が異なるため、その学生の実習後に個別指導の機会を多くとって進めた。学生の評価から、個々の学生が、自分のレポート作成に取り組めたことが伺える。次年度も個々の学生の取り組みの進行状況を把握しながら指導を進めていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
遺伝看護学	4	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①外部講師2名とのオムニバス講義であったため、外部講師による集中講義の事前に、基礎知識を整理する時間を設けた ②最終学年での秋開催の講義であったため、参加意欲、参加のし易さを促すために、集中講義とした ③臨床経験の豊富な外部講師にきていただいた ④倫理的側面の大きい分野であるので、知識学習のみならず、今後の職業選択や職業倫理に想いを馳せる思考の時間を設けた</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の問い「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」とした学生は6/9人と高かった。事象を理解する視点や考え方を得ることができた、また自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた、とした学生も同様に6/9人と多く、自覚的評価は高かった。</p> <p>全講義終了後にテーマを与え上でレポートを提出させ、それを評価対象としたところ、外部講師の講義から知識や倫理的な課題について教授されたことについて各人理解し、検討することができていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>母性や助産への進路を検討している学生も多く、また国試対策として知識の整理を希望する学生もいたが、課題レポートのみを課し、知識などについて評価しなかったこと、また学生自身による自由記載はなく、学習到達度の自己評価について捉えられなかった。態度については、講義形式をより相互的なものにする事で伝授できるところもあると考えられた。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>外部講師によるオムニバス講義であったため、一部講義内容が重複することがあり、今後調整の方法を検討する必要があると考えられた。外部講師との連携を強化する必要があると考えている。 また、講義実施の日時などに関する告知が非常に遅く、履修登録する学生が極端に少なかった。この点については、本来履修を希望したはずの学生の潜在的な層が把握できず、授業評価においてもこの影響は否定できない。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>我が国においても遺伝看護の第一線で活躍されている講師をお迎えしての講義であり、質の高い内容であったこと、また学生の意欲も高かったことから、学生たちの学びは大きかったようであった。周知と評価については、今後も課題が残る。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学演習	4	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年生前期に既習した「救急・クリティカルケア看護学」の知識を基盤に、特に人工呼吸器装着する患者の看護について、知識だけではなく、実体験を通して人工呼吸器を装着する患者の苦痛や看護の根拠について学ぶ機会とし、講義・演習を振り返り、救急・クリティカルケアにおける看護師の役割について各自レポート作成し発表を行い、学びの共有を行った。</p> <p>②救急・クリティカルな状態・状況における患者及び家族に対する倫理的課題や調整について、事例を提示し、グループワークを通して患者・家族・看護師の葛藤について考え、看護師としての行動について考える機会とした。</p> <p>③学生の受講動機では、「関心のある内容である」44.4%、「教員に勧められた」33.3%、がほぼ大半の動機になっていた。昨年は、「教員に勧められた」が90.0%と、ほぼ全員の動機となっていたが、今回は、自身の希望とする受講が増え、44.4%であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		どちらともいえない	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>本科目の履修者は18名であった。最終的な成績の平均値は、76.7点 (SD12.3) 点であり、A判定 (90+) 7名、B判定 (80-89) 0名、C判定 (70-79) 2名、D判定 (60-69) 9名、E判定 (59-) 0名であった。39%が理想的レベル (80点以上) で、約4割が標準的なレベルに到達できた。昨年は、7割の学生が標準的なレベルに到達できたが、今回は、低下を認めた。</p> <p>DP別では、「思考判断について」は68%、「意欲関心について」は85%、「態度について」は73%であった。全体的に講義に対して、意欲関心はあったが、知識が不十分なところがあり、提出課題が時間内に間に合わず、思考判断および態度面の点数が低下する形となった。</p> <p>学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は3.8-4.1に推移しており、33~39%の学生は「かなりそうだと思う」と回答しており、すべての項目において、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していたが、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」とする学生が2名存在していた。</p> <p>講義時間内に、集中して講義課題に取り組める授業構成としていたが、学生は講義時間内に課題を終わらせることができず、発表までたどりつけない学生が10名存在した。そのことが点数の開きを生み出し、達成できていないと評価する結果となったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、内容的は妥当であると考えます。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価では、「態度」73%、「思考判断」68%「意欲関心」85%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。事例および実際の人工呼吸器の体験を通して、昨年度の「関心・意欲」は95%と高値であったが、今回は、85%と低下していた。関心意欲の低下は、「思考判断」「態度」を約70%と下げる結果となった。今後は、関心意欲を引き出せるプログラムとしなければならないと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、プログラムを見直し、関心意欲を高めることのできる構成とする必要がある。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」に回答しており、平均値も3.9～4.1であったが、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」とする学生が2名存在しており、一部ではあるが、そのように感じてしまう説明の仕方になっていなかったかを、全ての資料を振り返り、再検討する必要がある。</p> <p>図書館の利用において、図書館の利用をしていない学生が5名、インターネットによる文献検索をしていない学生が6名、インターネットを使用していない学生が7名存在していた。昨年の1～3名に比べ増加していた。教科書を読み込み、レポートをまとめようとしたことがうかがえるが、4年生であれば、最新の情報から学び、その情報をまとめる力も必要となる。今後、文献検索方法および文献検索の必要性を説明し、課題への内容の広がりや理解の深まりを支援していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、4年次の選択科目である。今回、関心のある科目であるとし、主体的に学ぼうと考えた学生が約4割認められていたが、そこから関心・意欲を高めることができなかつたと反省する。これまでの資料を振り返り、分かりにくいところは分かり易く整理しなおしたいと考える。また、演習の流れを分かり易く説明し、どのように作業していくのかをさらに具体的に説明していきたいと考える。</p> <p>今後も、興味関心を高めることができるような授業展開の工夫を図っていく。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際看護論	2	後期	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>事前に日々の参加が評価に重視されることを案内したこともあり65名の選択があったが、受講動機は、「関心のある内容」が54.7%、「単位数を確保」が39.1%で、実際には学生の関心が高かった。</p> <p>指定教科書の筆者を外部講師としてご出講頂いたことは、学生にとっても印象に強く、稀有なご経験をお話し下ったことはこの科目へのモチベーションを高めたと思われる。</p> <p>北九州国際交流協会からの外部講師2名は北九州市における外国人居住や医療機関を受診する外国人への対応について具体的に示してくださり、卒業後看護師として勤務する際に活用できる情報が得られた。</p> <p>国内外の健康と環境、国や文化と看護の関係など実践例や研究成果を提示しながら講義をすすめたこと、現在進行中の研究プロセスに学生からWebフォームを用いて意見を聴取したり、リアリティのある学修活動を組み入れ、国際看護を現実的な課題として理解・思考することに役立ったと考える。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目で、65名が履修した。学修活動への参加を評価対象としたところ、出席、受講中の態度、グループワークへの取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加、リフレクションフォームへの記入などすべての活動で積極的に学ぶ姿勢を確認できた。</p> <p>1回欠席が7名で、全般に出席状況、受講中の態度、グループワークへの取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加、Webフォームへの記入で内容の不足や、参加態度の問題がある学生はいなかった。シラバスに掲げる理想の学生像に近いものがあり、全員をAとし、欠席のあった学生を減点した。</p> <p>授業評価で学生が申告した学習量については、30分以上の準備を1回以上と回答したものが48/65名 30分以上の復習を1回以上と回答したものは40/65名であった。</p> <p>図書館の利用については、インターネット(48)、図書館(29)、学術データベース(18)の順に多かった。インターネットを何らかの形で利用せずにできる学修活動ではなかったので、授業評価の調査方法、質問-回答方法を改善し、正確なデータ収集ができるようにした方が良いと考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>様々な情報を得たうえで、学生は自身の興味と感性に基づいて1つの国の歴史、社会情勢、衛生状態、健康状態、言葉、食文化などを調べてプレゼンテーションした。</p> <p>科目の性質上、海外の写真や資料を用いたが、学生が自身のプレゼンテーションで同様のテクニックを用いているものが散見され、興味を持って吸収し、発展的に学んでいる成果があった。</p> <p>文化多様性や文化能力について学ぶ当該科目は、ベースとなる知識と課題解決方法について知ることが目的であり、看護に限定せず、大学で学ぶリベラルアーツとしての側面を持ち、国家試験や理論に制約を受けずに学ぶ楽しさを体験できる科目であると考えており、学生の学ぶ姿からもそれは実践できていたと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;  「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価で「教科書を一切使わず無駄であった」旨意見が1件あった。著者を講師に招いており、何度も講義で参照する場面はあったが、教科書に沿って講義が展開されたわけではないために、このような意見になったかと思われる。</p> <p>教科書に情報が掲載されていることで、教材作成の手間も軽減できるので、次年度より教科書を変更し、より情報量が多い南江堂「国際看護」を採用することとした。看護教科書のシリーズの一冊なので、体裁や使いやすさなどは、看護学生は慣れていると思われる。しかしながら、看護に偏った内容にとどまらず、異文化対応能力、文化能力に関するリベラルアーツの科目としての性質も一部保持していきたいと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業評価で、4未満の項目は、自分が学ぼうとしている専門分野についての確に判断する力を得ることができた、必要となる技術を身につけることができた、コミュニケーションや表現力を高めることができたであった。2019年度は、看護英語や文化の異なる患者への対応など具体的な方法について単元を確保する予定とした。</p> <p>受講者は2年生だが、3年生での臨地実習や卒業後に看護師として活動する中で活用できる、異なる文化背景を有する人とのかわりを想定している科目となっており、4年生が受講すれば、臨地実習での経験を踏まえて、将来の社会での役割を具体的にイメージして発展的に学べるのではないかと考える。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	永田 賢介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
NPO論	4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業を受ける「動機付け」と、社会人としての現場で必要になる「自分の意見を持つ力」「コミュニケーション力」に力を割いた。昨年度の改善点として、取り扱う事例を工夫し、到達すべき目標設定を明確化した。</p> <p>地域包括ケア等における既存の制度と地域の隙間を紹介する他、医療や看護だけでは届かない領域のケアを行うNPOとしてのキャリアを選択したゲストを招いた。患者＝支援が必要な弱者という観点だけではなく、NPO活動の事例で、役割・出番・自己効力感等を育みいきいきと暮らす当事者の営みを紹介した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>「到達度自己評価」において、平均点が昨年度と比較し全体気に上昇した。医療・看護の世界と、地域・NPOの世界を関連づけて説明すること、また、学生に考え話す機会を提供できたからではないかと思われる。</p> <p>開講年次や時期のこともあり、国試結果に響く事の無い様、授業の予習復習や課題以外の学習の負担は意図的に減らしていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>直接的に看護や福祉の専門的知識を取扱うものではない本講義としては、カリキュラムレベルのねらいと設問にズレを感じる。今後については、学生の進路選択においても、カリキュラムマップにおける履修年次等含め再検討の余地がある。□</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質の評価」において、平均点が昨年度と比較し全体気上昇した。新しい価値観について平易な言葉で伝え、自分の考えを言語化するという目標に対しては、適切なプログラムであったと捉えられる。 学生の知識を深めるというより、視野を広げることができたという意見が多い授業であるため、国試が迫る段階ではなく、早い年次において触れることが学生にとって良い機会になると考える。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学特論	4	後期	選択	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>来春から医療現場で働くであろう看護学科4年生に、医療現場で重要性の高い疾病学の知識や医療技術を改めて解説しました。応用力をつけることに重点をおきました。また、看護国家試験に向けた知識の整理も出来るように心がけました。自著の教科書「解剖生理と疾病の特性」を使用して、ポイントを絞って講義しました。授業期間が終了後も、4年生からの個別の質問には最優先で対応しました。授業評価アンケートの受講動機をみると、「関心のある内容である」が66%と最も多く、看護師となって臨床現場で働く自覚や国家試験に向けた強い意識の表れと思っています。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>3回行った試験の成績はばらつきはありましたが、知識理解については全員が標準レベルには到達していると判断しました。本科目を選択した4年生の全員が、翌年に行われた第108回看護師国家試験に合格しました。授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目は平均値4.5と高い値です。「コミュニケーションや表現力を高めることができた」以外の全項目で平均値4.1以上です。看護師として働く上の基礎を改めて確認して貰えたものと嬉しく思っています。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護実践の充実」に属します。看護学科の学生は1年次に「看護形態機能学」「感染と免疫」などで基礎医学を学び、「疫学」「保健統計学」などで社会医学を学びました。そして、1年次の「疾病学総論」に続いて、2年次に「疾病学各論Ⅰ&amp;Ⅱ」「看護のための臨床検査」「薬理学」などで疾病の病態・症状・診断・治療などの臨床医学を学びました。それらの知識をもとに、様々な看護科目の授業・演習・実習で看護学を学ぶことができました。病院実習では実際の患者の看護を経験してきました。それらを踏まえたうえで、4年次に改めて医療現場で応用できる疾病の知識や医療技術を解説したのが本科目です。試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の項目は平均値4.6と高い値でした。ただ、「学生が参加する機会が創られていた」は平均点4.1とやや低い値でした。講義内容の性格上、座学中心になるのはやむおえない面もありますが、今後の課題と考えます。自由記載でも「分かりやすかった」とする評価が多かったです。</p> <p>また、学習量をみると、半分以上の受講生が30分程度の予習復習を4回以上行っていました。受講生が積極的に取り組んだものと嬉しく思っています。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>受講生の授業に対する意欲、試験の成績、到達度自己評価などより、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。看護師国家試験の結果も良好でしたが、今後、本科目で学んだ内容を忘れずに看護師として活躍されることを祈っています。</p> <p>学生参加などを取り入れたいのですが、講義数が8コマであり、内容も膨大であるため、なかなか困難です。今後、工夫したいと思います。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学演習	2	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。今年度より保健師課程選抜が2年生後期終了後となったため、34名が受講した。受講動機では、「資格取得に必要である」71.2%という認識である。今年度は「関心のある内容である」が25.8%いたことが前年度比較して、割合が増加している点である。</p> <p>②本科目は数的理解および推察・思考・判断を求める内容であるため、受講対象が実習前の2年生であることから、授業計画において、実際の地域課題に即した授業内容を取り入れ、単純から複雑へ考察が深まるように計画した。前年度の学習成果を踏まえ、今年度も基本的展開を同一とし、受講学生の学習進行に合わせて微調整を行う展開とした。</p> <p>③アクティブ・ラーニングの授業形態となっている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された		達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、80.8点であり、再試対象者は1名いた。標準的レベルに達した学生が97.1%であり、内、理想的レベルに達した学生は、50.0%であった。</p> <p>目標別にみると、思考判断に関しては76.4%、態度に関しては98.8%であった。毎年の傾向であるが、特に本年度はスタートのモチベーションが低い状況がみられ、数的処理に関して苦手意識が強い傾向にある。講義は、アクティブ・ラーニングの授業形態であり、教材を地域の具体的題材を取り入れることにより、学習意欲が高まり、保健師としての専門的態度を身につける上でも学生の到達度自己評価からも効果的であると判断できる。</p> <p>学生の到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」「必要となる技術を身につけることができた」「職業選択の参考になった」が4.0以上であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択希望者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が2年生後期であるため、授業内容の専門性の難易度を考慮することが重要である。 最終的な成績評価からは、1名を除いて標準的レベルに達し、50.0%が理想的レベルに達成していることから内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP,行動目標からみでの内容的妥当性 思考判断および態度に位置付けられた科目である。思考判断に関しては8割弱、態度はほとんどの者が達成していることから内容的には妥当であると考ええる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価において、1回30分以上の準備を4回以上行った学生が84.4%である。課題の提供については、毎時実施していたが、まだまだ全員の学生が取り組む状況でなかったことがわかる。一定の成果は出ていると評価できるが、一方で全員が主体的に取り組むことができるような仕組みを検討する必要がある。</p> <p>授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。</p> <p>図書館の利用が93.8%、インターネットの利用が84.4%であった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。</p> <p>2019年度からは、2年生後期科目から2年生前期科目と移行するため、さらに授業内容を精選し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	沖 勉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康政策論	4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保健師コースには必須の科目である。本人の希望もあり、選考された16人である。自発性を持った学生が多く、主体的に学んでいた。</p> <p>① 保健所等実習前に保健福祉行政についての概論を講義し、実習で学習してきた保健福祉計画について講義・ワーキンググループ学習を実施した。</p> <p>② これまで学んだことを総合的に活用できる科目であり、社会の動き特に健康に関する幅広い視野・興味を持ってもらうことが何より大切だと考えている。普段の生活の中で興味を感じたことを深めていく力を持ってもらいたいと考えていた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された		やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>小テストを3回したが、前回の授業内容はほぼ理解していた。</p> <p>グループワークでは、第二次北九州市健康づくり推進プランを資料として渡した。「計画の指標」の中から4つの指標をこちらから提示し、グループで協議し1つ選択してもらう。その指標を掲げた背景や現状を考察し、放置するとどうなるかを考える。そして、その指標を実現するためのユニークな具体的な事業を計画する課題をグループで協議し、発表させた。</p> <p>事業計画力・プレゼン能力ともほぼ良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>保健師コースには、必須の科目である。</p> <p>①保健所等実習をする際の基礎知識と学ぶこと</p> <p>②保健福祉計画の策定の方法や健康に関する課題解決方法について学ぶこと</p> <p>到達度自己評価では、専門分野の課題を検討する力・的確に判断する力を得ることができた項目で評価が一番高かったことから、内容的妥当性は割と高いと思われる。職業選択の参考にもなっているという評価も高い。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>最低限必要な資料は印刷して提示したため、それへの書き込みで授業の記録 としている。これからも必要な資料は印刷して提示したい。 話しがとぎれとぎれで分かりにくいと評価された。確かにその事項に関連の あることを説明するため、教科書の記載からは離れる場面があったと思う。 教科書の説明だけでは理解しにくいと思われる内容は、「教科書から離れて説明 している」と発言して、注意を喚起していきたい。 それと対照的な記載「授業で十分学習できた」との評価もあるので、次年度 も同じようなスタイルで授業を進めたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>総括的にはほぼ達成されたと考える。 学生との意見交換をしながら、理解の確認をして授業を進めたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術論	2	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①公衆衛生看護関係科目群において、公衆衛生看護の方法と技術を教授する科目である。開講時の学生の準備性は、看護専門科目&lt;看護実践と応用科目群&gt;の母性・小児・成人・老年看護学領域の概論の知識を備えていることである。後期にこれらの科目が開講されるため、他科目のシラバスを確認して、看護師課程と保健師課程の科目が連動させることができるよう、他科目のシラバスで進捗を確認して授業計画を立てるようにした。また、受講生の多くが保健師課程への出願につながるよう、実践のトピックスを提示し、学生とともに考えていくことを大切にしている。</p> <p>②受講動機をみると「必修科目である」23.1%で前年度とほぼ同様。「資格取得に必要である」76.9%と前年より+10.1%増加した。保健師課程の出願を希望する学生の傾向であるとえられる。一方、「関心のある内容である」7.7%は前年度より減少、「単位を取得する7.7%」で前年度より増加し、科目に対する動機づけに関して、保健師課程希望者と単位取得のための受講者とが含まれる多様性のあるクラスである。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①最終的な成績の平均値は78点で昨年度より減少。再試対象1名の影響が考えられる。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは15名(全30名中50%)で昨年度と同様。</p> <p>②観点別評価の達成度(客観的)に見ると、知識理解及び思考判断に関する評価は、試験、グループ発表及び質疑応答を通して80%であった。保健師課程選抜基準である成績に影響することもあり、学生は真摯に受講し、課題成果の到達状況もよかった。関心意欲及び態度では、日々の授業貢献度に加えて、グループ発表時の質問や発言などの意見交換をみたが、発言者は限られており、達成度は71%であった。</p> <p>③学生の「学習到達度の自己評価」では、平均点が最も高かった項目は、4.4点「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」であった。今年度、活動性の高いグループ活動を取り入れた効果であるとえられる。次いで、4.3点で「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」だった。認知領域と情意領域のいずれも自己評価が高かった。②の客観評価結果との整合性はとれている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、公衆衛生看護関係科目群に位置づけられており、看護師課程の各論領域に関する概論を修了あるいは同時開講している時期である。また、公衆衛生看護学概論を履修した後、方法論としての各論が位置づけられている。「学習到達度の自己評価」をみると、上記にも示したように、全項目ともにほぼ達成されている。受講動機では、「資格取得に必要である」ことや「関心のある内容である」の項目への回答がある。以上より、DP, CP, カリキュラムマップにおいて本科目の位置づけは内容的に妥当であると評価できる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」(平均値4.4 中央値5.0)で昨年度(平均値4.2 中央値4.0)より増加した。到達自己評価の項目で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の改善につながったと考えられる。次いで、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会が作られていた」4.3で、前年度より改善した。学生からの疑問は、教員が全員に向けて説明するように工夫した。</p> <p>学生の授業に臨む姿勢は真摯であり、到達度自己評価で高い項目は、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「コミュニケーションや表現力を学ぶことができた」「職業選択の参考になった」で平均値4.1～4.4と前年度より改善していた。</p> <p>自己学習課題では、図書館での文献検索を必要とする課題を提示していたため、「図書館、インターネット利用」は80%の学生が回答した。前年度50%から改善した。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>保健師課程では必修科目、看護師課程では選択科目に位置づけられる。履修者数は前年度と同様30名であった。受講動機は、それらを反映し「資格取得に必要なもの」、「単位取得のため」など多様であった。学生の進路選択に参考になるようなトピックスなどを適宜取り入れ、受講生の満足度を高める工夫を行った。その成果として、「到達度自己評価」「授業の質評価」は全体的に改善された。学習到達度は、ほぼ全員が到達した。理想レベルの到達状況は前年度と同様であった。前年度に減少していた、「図書館やインターネットの利用」に関する項目は、今年度は30ポイント改善した。自己学習課題の方法を丁寧に提示することによって、図書館利用やインターネット検索率が改善すると考えられた。次年度からは新カリキュラムと移行し、開講時期がかわるため、授業方法と内容の工夫が必要になる。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対象別保健指導論	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護師課程は選択、保健師課程は必修の科目である。保健師課程の選抜試験が2年前期終了時に実施されることから、受講動機として「資格取得に必要である」が最も多かった。しかし、「関心のある内容である」を受講動機にしてくれた学生が15.4%いたことは、大変うれしいことであった。「単位を確保する」と答えた19.2%の学生も、主体的な受講動機があったと考える。看護の方向性を予防の視点で考えたり、病院看護職と地域の看護職の連携を考えたりすることは、これからの看護にとって必要不可欠である。今後も、より多くの看護師課程の学生に履修していただきたいと願っている。</p> <p>授業内容は、15回授業を「健康課題別」「ライフステージ別」の2つに区切って解説した。地域保健活動は、対象のライフステージや健康レベルがさまざまであり、間接的な援助方法を用いるためイメージしにくい。そのため、教科書は予習復習に使い、講義はオリジナルのレジュメと、毎回、保健師ジャーナルから事例を準備した。授業評価では、授業の記録は「配布資料に記録した」が多かったため、ポイントを整理するためには配布資料が有効であったと考える。さらに、自分なりのノートを作成してくれた学生もあり、学生の意欲を感じた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>科目成績は、平均点72.3点、「秀」0人、「優」3人、「良」18人、「可」8人、「放棄」2人であった。昨年と同レベルの試験問題だが、今回、平均点が約2点上がっている。昨年は「秀」があったが、今年度の0人は少しさみしいところである。しかし、「優」「良」が増え、「可」が減ったことで、全体の平均点が上昇している。「知識・理解」を問う問題の正答率は7割を超えているが、「思考・判断」を問う問題は点数のばらつきが見られた。</p> <p>対象別保健指導論は、健康課題を顕在化しているものだけでなく潜在化しているものも考えなければならず、1対1の対応だけでなく、「多方面から捉える」「組み合わせ合わせて問題解決する」ことが求められる。授業評価の到達度評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事例(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方をえることができた」が高いことから、科目の本質については考えられていたのかもしれない。</p> <p>授業では、小グループでワークシートをもとにディスカッションする時間を作っていたため、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表する、などの学生参加の機会がつけられていた」では「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」の学生が8割を超えていた。ディスカッションに真剣に取り組んでくれていたことがわかった。これからも、ディスカッションに参加し、視点の広がりを得られるようにしていきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は地域保健活動の方法論である。あらゆる年代、あらゆる健康レベルを対象とした健康上の課題を捉え、個別・集団・地域のアプローチを組み合わせることで支援する内容である。基礎となる知識は、多岐にわたっている。各看護学の保健の部分に加え、健康科学や社会学も必要であり、それらをもとに「思考判断」し、社会の動きを常に学び続ける「意欲・関心」を持ち、保健・医療・福祉の領域と連携する「態度」を養う科目である。</p> <p>保健師国家試験を視野に入れた内容を実施したので、2年後期ではかなりの難易度だったと思う。いくつかの課題を提示したものの、「授業課題以外に学習に取り組まされたか」では「取り組んだ」と答えた受講生は少なかった。理由として、「他の課題で忙しかった」とあった。選択科目のため科目の優先順位が低くなると思うが、自主的に学ぶ習慣が身に付くように工夫していきたい。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に          単にお示ください。          また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し          ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;          「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、          インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の予習、復習については、9割以上の学生が1回以上取り組んでくれていた。15回のうちいくつか課題をだしたため、その調べものかもしれないが、これを主体的に継続できるような工夫をしたい。また、6割以上が図書館の図書や雑誌を利用していた。やもすると、インターネットのみで終わらせる学生があるが、きちんとした文献、雑誌を活用して学習したことは評価したい。</p> <p>授業後半に、テスト問題を作成するレポートを課したり、是非学習してほしい内容を授業のテーマごと20項目にして渡した。そのため、試験前に自己学習して質問に来る学生が多かった。中には、手分けしてまとめていた学生もいたが、テスト前には学びを共有しており、定期試験で再試がいなかった。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は保健師資格のための学習であることから、方法論を解説するだけでなく保健師ジャーナルで公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは、専門雑誌であるため学生には難しい内容である。授業の最初の何回かは、取り組みの内容を理解するためワークシートを用意し、ポイントを説明しながら読んでいった。学生は保健師専門雑誌にある活動の実際に興味を示し、授業の後半になると、最低限の解説で内容を理解した。</p> <p>保健師過程を目指している学生と、看護師課程の学生では、意欲と行動に違いがあるように感じる。この科目が看護師課程の国家試験に出題されている事、今後の看護活動は病院完結型では出来なくなっている事、看護師に必要な知識である事、をしっかりと意識させていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護管理演習	4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>4年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。受講動機では、「必修科目である」62.5%、「資格取得に必要である」75.0%であり、「関心のある内容である」12.5%である。</p> <p>本科目は、保健師課程実習前に2コマ開講し、終了後開講する計画で実施している。実習での事象を想起しながら、公衆衛生看護管理としての学習を計画している。授業形態はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業となっている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、88.0点であり、再試対象者はいなかった。93.8%が理想的レベルに達した。目標別にみると、思考判断に関しては80.4%、意欲関心に関しては99.4%、態度に関しては100%、技能表現に関しては99.1%であった。学習成果としては、目標は達成できたと考える。</p> <p>学生の成績評価においては、科目の目的を達成できたと評価できる。学生の到達度自己評価においては、全項目においての評価平均が4.1～4.4点であり、概ね到達できたと判断できる。今後の本科目の意義を含め学習方法の検討をさらに進めていく。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が4年生後期であるため、卒業後の新人保健師育成から管理的視点にいたるまでの授業内容を計画している。</p> <p>最終的な成績評価及び学生の到達度自己評価から概ね目的は達成できていると評価できる。そのため、内容的には妥当であると考えているが、学生の学習意欲を高める授業展開の検討は、今後も必要である。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業方法の展開において課題の提供について、前年度の結果を踏まえ、学生の実習での成果状況を踏まえ、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開したところ、前年度より講義内容に関心をもち、成績の結果にもその状況が反映していると考えられる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目の達成状況については、全員の学生がDPの目標を理想的レベルで達成できている。 前年度の結果として、保健師課程を選択している学生は、他学生より国家試験の準備にかかる時間が短いことがあせりとなり、後期に開講する授業の参加状況が消極的となりがちである。特に看護師国家試験合格を第一優先とおく場合に顕著にその状況がみられる。本科目の学習意義の理解と、4年生後期の対応について検討をすすめ、学生が主体的に学習できる環境を検討することとした。その結果、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開したところ、前年度より講義内容に関心をもち、成績の結果にも一定の成果がみられた。今後もこの取組については積極的に進めていく。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護学科の専門科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、資格取得に必要な科目と全員が認識していた。この科目は、講義時間に対して学習内容量が多いため、学生に事前課題を中心にポートフォリオを作成させている。また、学生に発表や討論で、知識理解を深めるような場を設定している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な学生の成績の平均値は、65.2(±9.9)点であった。成績が「優」の学生もいた。学生のDP目標別にみる達成度は、知識理解が58.5%、思考判断が84.4%、意欲関心86.7%であった。学生の「到達度自己評価」は、4.1～4.7であった(看護学科3.6～4.0)。「知識を確認、修正、新たに得る」という項目の学生の平均値は4.4であるが、知識を定着する点が課題である。学生の「到達度自己評価」からみると、概ね妥当であったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①カリキュラムマップの位置づけからみた内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、養護教諭を志望する学生にとっては必修科目でもある。公衆衛生の学びの後でもあり、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて内容的にも妥当と考える。</p> <p>②DP:行動目標からみた内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解の達成度は低いが、その他の発表や討論は前向きに実践し、ポートフォリオの作成などの成果物からみて内容的には妥当であると考える。</p> <p>③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の「到達度自己評価」の平均値は4.1～4.7であった。職業選択の参考になったが最も高く4.7であった。学生の「授業の質評価」の平均値は、4.1～4.7(看護学科37～3.9)であり、学生は授業の中で参加的な機会が多いとらえていた(4.7)。</p> <p>学生の「学習量」は、準備と復習を全員が行ったと認識していた。</p> <p>学生の「情報利用」について、シラバス活用については89%の学生が利用し、78%の学生が計画を立てていた。</p> <p>学生の「図書館などの利用」について、全項目ほとんどの学生(89%～100%)が利用していた。</p> <p>授業の進め方としては、学生の到達度や授業の質からみて概ね妥当と考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>2年次の「専門教育科目」であり、教職に関係する科目でもある。学校保健の基礎的な知識を理解していく科目であるため、養護教諭の職務に関する講義と連動させながら学校保健の知識理解を定着させていきたい。</p> <p>今後、さらに知識理解を定着させるために必要な方法等についても検討したい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護学科の専門科目にあたるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、資格取得に必要な科目であると全員が認識していた。</p> <p>この科目は、学校保健履修後が進行しやすいが同時期に履修している。そのため、学校保健の進行を考慮しながら養護概説の授業を進行している。事前学習を促進していくために学生にポートフォリオを作成させたり、講義だけでなく思考判断を深めるような演習を多く取り入れたりして授業を進行している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績としては、71.0(±9.8)点であった。達成レベルを80%とした場合、全体としての達成度は、「やや達成された」とした。目標別にみる達成度は、知識理解が63.0%で「どちらともいえない」、思考判断が71%で「やや達成された」とした。その他の項目、意欲関心が83.3%で、技能表現が82.9%で「達成された」とした。</p> <p>学生の「学習量の評価」は、30分以上の予習に6回以上取り組んだ学生が67%いた。復習については、6回以上の学生が44%、他が1回から4・5回という結果であった。</p> <p>学生の「到達度自己評価」における平均値は4.2～4.7で、項目別に大きな開きはみられなかった。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職の養護教諭一種免許状資格に関わる科目である。公衆衛生の学びの後でもあり、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて妥当と考える。</p> <p>②DP,行動目標からみた内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解の達成度は低い、発表や演習を学生は前向きに取り組む、ポートフォリオの作成なども努力がみられた。知識理解の面に課題は残るが、学生の自己評価からみて概ね内容的には妥当であるとする。</p> <p>③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の「授業の質評価」は、4.4～4.6で、項目に大きな差はみられない。 「情報利用」のシラバス活用や授業の計画について、参考にしていないと答えた学生がいたが、実際、学生は予習復習をしていた。 「図書館の利用」について、全項目、89%の学生が利用していた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>2年次の「専門教育科目」であり、教職に関係している科目でもある。達成度としては、高いとはいえない。しかし、学生の「到達度自己評価」や「授業の質評価」からみれば、学生自身の満足度は低くない。そのため、次年度も、講義に演習を交えるなど授業を工夫しながら実施していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していたが、講義は全学科共通のため120人ちかい規模になる。 ③「答えはないのに違うといわれるのはどうしたらいいかわからなくなる。それなら先生の思っていることでもいいので教えてほしい。」という意見があったが、教育原理が自分で答えを探さなければならない科目であることを事前に周知させる必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均は79.27であり、全体の平均点72.45に比して6.82ポイント高かった。全体のポイントも昨年より0.67しか下がっていない。他学科に比して非常に成績はよかったと言える。理想的と言える80点以上の学生は22名中10名であり、まずまずであった。</p> <p>学生の自己評価でも、各項目に於いて「少しそうでない」というところに3～7人おり、これは例年になかったことである。到達度の平均値は各項目3.2～3.4と昨年度よりも0.8ポイントほど激減している。</p> <p>授業に対する評価も2.9～3.4であり、学生の評価は今年の現象として異常に低いと思う。その理由は今年の冬、私が強度の血管運動性鼻炎に罹り、マスクをしての講義だった。そのことについて「声が小さく、更にマイクから離れて話すので聞き取りにくい。」という意見も他学科も含めて多くあり、次年度からは罹病しないように心がけたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「もももとしていて語尾が聞こえにくいのではっきり話してほしいです。」という意見があった。もとより滑舌はよくないので、たまに「はっきり話してほしい」という声はあるが、今学期は深刻な血管運動性鼻炎に罹っていたのでマスクをしての講義になった。次年度は体調管理に努めたい。</p> <p>私語も多かったと学生からの声にはあったが、教壇からわかる時とわからないときがあるのでどうしようもない。私語についてはいくつかの私語研究を検討したが、いい対策はない。</p> <p>「答えはないのに違うといわれるのはどうしたらいいかわからなくなる。それなら先生の思っていることでもいいので教えてほしい。」という声があったが、これは学生の学びに対する理解の不足ないしは曲解である。事前に「正解」なるものについてのいい説明と[good answer]を適宜紹介することにした。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>文部科学省の言う「主体的・対話的で深い学び」というのはかなり学生のこれまでの学びの状況とかけ離れている。また、「正解のない問い」という昨今の動向についても、「何を書いても正解」という勘違いをしているようなので、「正解はいくつもあり、まちがいはある」とただしているところである。来年度は学生との対話的姿勢が顕在化するような工夫と、学生がアクティブに自分自身の「正解」を自己評価できる方法を考えたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>○良と可に集中していた昨年度と比較し、本年度は秀50.0%、優25.0%、良と可も1名のみ、不可はいないという大変優秀な成績であった。</p> <p>○基本的な項目も論述タイプの応用的な内容も非常によく習得していた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本年度については特に問題もなく、非常に満足できる結果であった。看護学科のみの授業であれば、授業内容を深化させより多面的にテーマを理解させる方向に進めたいが、他学科とのバランスの関係もあるため、次年度も本年度同様の枠組みで授業を進めたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本年度の質が次年度も継続すると仮定すれば、授業における事例展開や理論モデルの紹介など発展的内容を組み込むことも検討したい。また教師の立場から教育社会学の知見をどのように活用できるかという内容を充実させることもできるだろう。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。</p> <p>②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。</p> <p>③新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>看護学科の平均点は76.82であり、全体の平均値68.63を8.19ポイント上回る。他学科と比べれば非常によかった。また、80点以上は11名中5名であり、よかった。しかし、学生の自己評価もほとんどの項目で2.6と低く、2～4名が「全くそうでない」「少しそうでない」に記入している。これは昨年とは全く逆の傾向を示している。そして結果としての成績と自己評価との落差が大きい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多く、カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価については各項目で「全くそうでない」に8人中4～6名となっており、平均値も1.8～2.4と異常に低かった。</p> <p>学生からは「わたしたちの授業を受ける姿勢についてkaname netに文句を書いていて、いかがなものかと思った。」というのがあった。これは学生の反応に対応して授業を改革した経緯を公開ものであり、大学の教員としての説明責任の一部だと考えている。この趣旨はこの受講生が現在受講している「教育方法論」の時間に説明の文書を配布した。</p> <p>また、「説明が理解しにくい。プリントが読みにくい。」「授業で何と言っているのかわからない。理解できません。」という意見があり、ここは学生と相談しつつ授業の改善を計りたい。</p> <p>さらに「テスト一週間前に持ち込みなしと言われたので、形式などがよくわからず、勉強しにくかった。」というものもあった。試験の説明が不足していたので、今度は定期試験期間内にやることを確約した。</p> <p>「書いた意見に否定しかされない。」という意見があったが、小レポートのことだと思う。もう少し丁寧に朱を入れることにしたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>学生に達成感を得てもらうためには日々の講義での満足度を上げる工夫が必要である。そのためにはいいな解説を心がけたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、教職に関する科目であり、養護教諭一種免許状取得のためには必修科目である。学生も、「資格取得に必要である」100%と回答していることから、資格取得に必要と認識している。</p> <p>この科目は、学生が学校における保健教育について知識理解を深め、教職課程の実習で保健教育を学生が実践できる力を養うことが重要になる。そのため、講義だけでなく演習を多く取り入れている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の最終的な成績の平均値は、75.6(±9.85)点で、学生の成績は、理想的レベルに達した学生は(達成レベルを80%とする)「優」が56%で、他は、「良」と「可」であった。</p> <p>教育目標別には、知識理解は73.4%、思考判断75.7%、関心意欲86.7%、技能表現74.3%であった。</p> <p>学生の「学習到達度の自己評価」は、3.9～4.2、学生の「授業の質評価」は、3.9～4.2であった。学生の評価としては、概ね達成していると考えられる。実習に向けて、保健教育が実践できるかどうかという点からみると概ね達成できたと考える。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①カリキュラムマップの位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職に関する科目であるが、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて概ね妥当な内容であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 学生の評価(達成度・授業の質)からみると、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の「授業の質評価」は、3.9～4.2であった。 学生の「学習量の評価」について、学生の予習・復習は、学生が課題に取り組むことで半数以上の学生が6回以上実施していた。 学生の「情報利用」について、シラバスを利用した学生は67%であった。 学生の「図書館などの利用」について、89%の学生が活用していた。 以上、授業の進め方として、概ね妥当と考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>3年次の教職に関する科目であり、教職課程の実習に関する授業「事前及び事後の指導」につながる科目でもある。そのため、「事前及び事後の指導」の講義でさらに保健教育を実践できるように支援していきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、教職における実習前後の科目であり、教職の免許状取得のためには必修科目である。学生も「必修科目である」と「資格取得に必要である」で全員が認識し受講している。 教職の実習は初めて経験することになる。そのため、授業内容には、実習に必要となる実践的な演習を多く取り入れている。また、外部講師についても、現場経験のある教育委員会の人権担当者や現職の教諭を講師として招き講話をしていただいている。さらに、4年生の意欲が高まるよう、実習発表会に次年度実習を予定3年生の参加を促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績は、80.0%(±4.18)で、「優」および「良」の成績であった。 学生の「学習到達度の自己評価」は、4.2～4.6という評価であった(看護学科4.0～4.2)。教育目標別には、達成度を80%とした場合、知識理解は、67.5%で「やや達成された」であった。その他、思考判断79.5%、関心意欲95.8%、技能表現90.0%でほぼ「達成された」と考える。実習に向けて、知識については、確実に理解を深めていくよう指導していく必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。  <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみた内容的妥当性 本科目は教職の実習前後に位置づけられた必修科目である。学生の実習発表会の時期を設定するのに困難な点もあるが、カリキュラムマップの位置づけからみた内容的には妥当であると考えます。 ②DP,行動目標からみた内容的妥当性 成績評価からみると、実習に向けて知識理解を深める学習をすすめてほしいが、他の項目は達成されているため、内容的には妥当であったと考えます。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考えます。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の「学習量の評価」は、授業の準備や復習について、取り組んでいないと自己評価している学生が1名みられた。しかし、実際は、事前の課題や事後のレポートを提出しているため、学生の自己評価の認識とは異なる。</p> <p>学生の「情報利用」について、9名中、「シラバスの記載を参考にしなかった」1名、「あらかじめ授業の計画を立てなかった」3名みられたがほとんどの学生がシラバスを活用していた。</p> <p>学生の「図書館などの利用」について、「利用していない」が1・2名で、「利用した」が7・8名であった。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、教職における実習前後の科目である。事前及び事後の指導は、学生の「到達度評価」などからみれば達成できたと考える。学生が実習に向けて、基本的な知識理解が深まるよう工夫したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習(養護教諭)	4	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職実践演習は、養護教諭免許状取得においては必修科目である。学生も「必修科目である」と「資格取得に必要である」と認識し受講している。最初の授業で、全学科対象に授業概要について説明がある。しかし、学科のみで実施する授業もあるため、その後も学生に授業について説明しながら進めた。実際に学生の7名中6名はシラバスを参考にしてきた。授業の進行は、全体15回の中で、外部講師を招いたり、外部機関の研究会に参加するなど、実際の学校での取り組みや実践がわかるよう授業内容を工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85.1(±8.45)点であり、「優」と「秀」の学生が7名中6名であった。目標別に見ると、思考判断に関しては82.7%、関心意欲93.6%、技能表現に関しては84.7%で、達成レベルを80%とすれば全項目達成していると考えられる。</p> <p>学生の「到達度自己評価」は、全ての項目の平均値が4.4であった(看護学科4.0～4.2)。学生の到達度からみても、ほぼ目標を達成していると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は教職課程の学びの集大成であり、養護教諭免許状取得に必修の科目である。看護学科学生の場合は、教師と看護師という別の進路に進むため、学生のモチベーションも異なることが予想される。この面について、学生のニーズに応えるよう工夫する必要もある。しかし、カリキュラムマップ上の位置づけやその授業内容としては、学生が一定の成績を収めていることから妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 DPの項目の達成度からみると、DPの全項目、学生は達成しており妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の「授業の質の評価」の平均値は4.4点であった。 学生の「学習量の評価」は、準備と復習どちらも課題に取り組み実施していたと考えられる。 学生の「情報利用」については、7名中6名がシラバスを参考にしていた。 学生の「図書館などの利用」については、7名中6名が利用していた。 このような学生の評価から、授業の進め方については、概ね妥当と考える。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>教職課程の学びの集大成といえる本科目は、教師へとつなぐ内容として概ね達成できたと思う。次年度も、学生が教員として力をつけたり、学校での養護教諭の働きがわかるような授業構成をしたい。また、他学科との教員とも連携した講義を継続させていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学(新約聖書)	1	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①「学生の授業評価アンケート」(学科全体97名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が6.2%、「GPAアップ」が3.1%、「資格取得」「友人履行」が2.1%であった。ほとんどがキリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は前期の復習を含めて受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。授業の質評価を見ると、&lt;評価基準は明らかであった&gt;の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「19、38、37」で93.1%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「4、1」で5.0%、無回答が「2」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員からの詳しい説明によるフィードバックが与えられるというシステムを作り、参加意識を高める工夫の一つとした。③総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや例えは可能な場合には看護と関係のあるものを用い、専門職との関係で理解できるように工夫した。④期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし理解をより深めることができるように工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績を見ると、60点未達は3名であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。②100名の学生の&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「15、37、45」と「16、34、44」でそれぞれ96.0%と93.1%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)に「4、0」と「5、1」で4.0%と5.9%であった。後者に無回答1名があった。③専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する&lt;検討する力&gt;&lt;判断する力&gt;に関しては、肯定的回答は「11、32、46」と「10、32、47」でいずれも88.1%であったのに対し、否定的回答は「10、2」と「10、1」で11.9%と10.9%となり、後者に無回答が1名あった。④専門分野でも&lt;意欲&gt;に関して肯定的回答は「9、31、48」で88.1%であり、否定的回答は「10、2」で11.9%であった。⑤さらに専門分野の&lt;技術&gt;&lt;コミュニケーション、表現力&gt;の習得では、肯定的回答はそれぞれ「9、31、43」「7、32、48」で双方とも82.2%と86.1%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「11、5」と「11、2」で15.8%と12.9%であり、双方に無回答が1名あった。⑥学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「12、29、52」で92.1%であったのに対して否定的回答は「5、2」で6.9%で、無回答が1名あった。⑦&lt;職業選択の参考&gt;では、肯定的回答は「8、30、50」で87.1%であったのに対し、否定的回答は「10、2」で11.9%で、無回答が1名あった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本として統合する総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;ではそれぞれ4.0%と5.9%であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、&lt;検討する力&gt;&lt;判断する力&gt;では同様に11.9%と10.9%となり、&lt;意欲&gt;&lt;技術&gt; 習得では11.9%と15.8%であった。その他を見ると、&lt;コミュニケーション、表現力&gt;の習得では12.9%、&lt;倫理・規範&gt;に関しては6.9%であった。②DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;、及び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための&lt;倫理・規範&gt;、これらの分野では否定的回答がそれぞれ4.0%と5.9%、6.9%であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかると&lt;検討する力&gt;&lt;判断する力&gt;、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける&lt;意欲&gt;、並びに、&lt;技術&gt;の習得という専門分野と、適切な関係を形成する&lt;コミュニケーション、表現力&gt;に関しての否定的回答はそれぞれ11.9%、10.9%、11.9%、15.8%、それに12.9%であり13%未満に留まった。③以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上であり、専門と技能表現の分野では80%台後半であり、授業内容は妥当であると考えられる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考えられる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>① 学生からの担当教員へ意見は予復習につき、何をすれば良いかわからないという学生には、第1回目授業から配布している「自己学習記録」に毎週の「復習の読書テキスト・予習の読書テキストとその時間」を記載する枠を設け頻繁に喚起し、学習量の増加を奨励した。② 学習量の評価を見ると、&lt;配布資料に記載&gt;が79人で、予習復習で&lt;1回30分以上の予復習&gt;の0回の予習77人、復習74人とほぼ同等であった。③ 授業の進め方に関する授業の質評価を見ると、&lt;学習の範囲や課題は明らかであった&gt;という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「17、38、41」で、否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」という回答は「3、1」あり、無回答1であった。&lt;理解しやすい&gt;という項目では、「12、34、47」であったが、否定的回答は「5、2」あり、無回答1であった。&lt;学生の質問への答を得る機会&gt;では肯定的回答は「12、34、47」で、否定的回答は「5、2」で、無回答1であった。&lt;参加の機会&gt;では、肯定的回答が「11、31、43」で、否定的回答は「11、3」で無回答2であった。④ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1)予復習の方法を具体的に指示すること、2)毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。学生の担当教員へ感謝の肯定的意見は、この反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生の専門分野であり、その専門分野での&lt;的確に判断する力&gt;及び&lt;その学びを深めたいと意欲をもつ&gt;ことの基盤となるものである。つまり、この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。&lt;授業の進め方とその向上について&gt;実学であることの意識化が必要である。③ 以上から、授業準備として、今後も学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、テスト範囲を早めに提示し評価基準を明確にする。授業を進めるに当たっては、板書の内容をプリントして配布すること、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を今後も工夫することが考えられる。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズ(聞く、調べる、読む、書く、考える)の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。</p> <p>② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと思う。</p> <p>③ 初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズ(聞く、調べる、読む、書く、考える)の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。</p> <p>④ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ(聞く、考える、討論する)の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。</p> <p>⑤ 評価は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。</p> <p>⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。初年次Ⅰ同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼン</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①総合評価の平均値は76.9点(±8.0)だった。86.7%の学生が標準的レベル(70点以上)に達しており、理想的レベル(80点以上)に達した学生は41.0%だった。1名は60点未満となったが再試験にて合格とした。</p> <p>②DP観点別の成績は、DP1-1(知識・理解)は、38.0/50点(得点率76%)、DP3-1(意欲関心)は、16.5/20点(得点率82.5%)、DP4-1(態度)は、16.1/20点(得点率80.5%)、DP5-1(技能表現)は、6.2/10点(得点率62.1%)だった。</p> <p>③学生の到達度自己評価の平均値は、3.9(4.2-3.7)で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」4.2で最も高く、次いで「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.1であった。また、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は3.7であった。</p> <p>④授業の質評価の平均値は、4.1(4.4-3.9)で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」4.4と最も高く、次いで、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.2であった。</p> <p>⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、89.2%・80.4%で、4～6回以上した学生が、54.9%・32.4%であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、18.6%という結果であった。自由記載から、他の教科に時間が取られる、他の課題が多いという意見が聞かれた。一方、課題以外に取り組んだ学生の自由記載では、ポートフォリオを工夫した、文献検索を行った、関連書籍を読んだり、ニュース等情報を積極的に取り入れたなど図書館等を活用し積極的に学習をしていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目で、初年次セミナーⅠで学んだ既習の知識をもとに、討論、発表を取り入れた構成となっている。1年次で身につけなければならない講義内容を含んでおり科目の位置づけとして内容は妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度(知識理解、意欲関心、態度、技能表現)及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好で、初年次セミナー I を基盤とした授業構成は、初年次セミナー I での学びの確認と定着に繋がったものと考えられる。そのことは、学生の自由記述に「読む・書く・話す・聞くのスキルがこの授業で、少しは向上したかと思う」という意見からも伺える。さらに発表の経験をとおり、話し方、聞き方の学修および司会進行の役割の学修に繋がったと考える。次年度も今年度の授業内容を基盤に学生の意見など鑑み検討をくわえる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目である。上記に記載した評価点、観点別学習達成度(知識理解、意欲関心、態度)及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと思われる。今年度実施した授業工夫をもとに、より学生が関心意欲をもって取り組めるよう講義内容を検討する。また、これからの看護の学びの基盤科目であり、学ぶ意義を講義を通し伝えていく。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。</p> <p>ラケットスポーツ(バドミントン、卓球、テニス)では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後には反省点や次回に向けての改善点(課題)などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。</p> <p>ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は83.6(±8.5)点であった。成績分布別にみると、90点以上が31%、89～80点が47%、79～70点が10%、69～60点が12%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、78%の学生は理想的レベルに達していた。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が25%、「わりにそうだと思う」が52%、「まあまあそうだと思う」が20%、「少しそうでないと思う」が3%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.0)。</p> <p>「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が14～20%、「わりにそうだと思う」が34～41%、「まあまあだと思」が30～38%、「少しそうでないと思う」が7～13%、「全くそうでないと思う」が1%であり、多くの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.5～3.7)。</p> <p>「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目9)についても、「かなりそうだと思う」が21%、「わりにそうだと思う」が36%、「まあまあだと思」が34%、「少しそうでないと思」が9%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.7)。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ(バドミントン、卓球、テニス)の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解(DP1)」、「態度(DP4)」、および「技能・表現(DP5)」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP, CP, カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価は、平均値が3.7～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。</p> <p>本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。</p> <p>また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外でスポーツジムで運動をしたり、ランニングなど体力づくりなどを行っている者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>概ね目標は達成できたと考える。</p> <p>今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日頃、文学的考察といった内容を意識していない学生たちに、表現することの大切さを今一度思い起こすべく、関心の湧く題材の文学作品を提示紹介しながら、表現、発想、視点を中心に、文学を学ばなければならない理由を教授下。文学的考察は、人の心、時代背景、歴史観、言語、表現といったすべての事柄を含むので、ひいては最終的に「生きてゆくために」必要不可欠な概念であることをつかむことを目的として講義した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>はじめは学生の反応にムラがあったが、やむをえないことであると受け止めて、学科特有の証拠であると解釈し、同じ文学の講義でも人文学部の講義とはいささか雰囲気を変えて、学生からの感想文を主に返答する形に講義を進めていった結果、学生自身の学びの自覚が見られて後、徐々に75%あたりまでは伸びたように思う。少数の学生は私の休講を不満にしていたが、大方の学生は反応は素直に理解していたようであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>カリキュラムマップ等々における本科目の位置付けから見た内容的妥当性はよかったと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>特に一部の学生が良い意味で活発に反応して意欲的にとりこんでいたようである。これは有り難い現象であった。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>達成状況の総括的評価としては、75%である。工夫を重ねてゆきたいと考えている。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、「資格取得に必要である」49.3%、「単位数を確保する」47.9%であった。教職必修科目であり、かつ保健師の資格取得に養護教諭II種が必要であることから、看護学科の大半の学生が履修したと思われる。2016年度から選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられたことから、2017年度より講義計画を変更し、統治機構に関する講義を基本的人権に関する講義より先に行っている。また、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを確認に伝えることを心掛けた。なお、欠席率は平均6.86%であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>後期試験の平均点は75.44点であった。成績は後期試験をベースに、コメントの記述内容について若干加点(最高10%)することで総合評価とした。その結果、再試対象者は2名(ほか放棄者1名)、理想的レベル(80点以上)に達した者は28名であった。積極的にコメントを出す学生も多く、関心と学習意欲の高い学生が多かったことが、高い成績を導いたものと思われる。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに3.8、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」、「自分なりの目標を達成した」の平均値がともに3.7であった。他の項目の平均値もすべて3.3-3.6の間にある。ほぼすべての項目について、昨年度並みであった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数以下であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にしよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないとする。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.0、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、の平均値がいずれも3.9で、昨年度よりやや上昇している。2017年度より毎回講義終了後に学生にコメントを任意で提出する機会を与え、毎回40名前後の学生が提出していた。そのためか、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が4.0となり、昨年度より0.3上昇した。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は44名、復習を全くしなかった学生は43名であった。昨年度よりはやや減少しているものの、今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外の学習として「復習」、「自己学習」、「ニュースで政治のことを積極的に見た」などの記述があったが、授業以外に学習していない理由として「授業で理解できたから」、「他の教科の課題をしていた」、「何をすればいいかわからなかった」などの記述が見られた。学生の意見について、「先生が自分の考えや意見を言うことが多すぎて、そんなことを言われたら皆先生の意見に左右されてしまうと思うので、言わない方がいいと思います」との意見があった。この講義では多様な学説や意見を紹介しているが、その中には明らかに日本国憲法の理念とそぐわないものもあり、そのような意見については批判的に取り上げることになる。大学での学習を通じて、教員の見解を含む様々な意見に対して批判的に検討する視点を常に持ってほしいと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>哲学の授業を受講するのは大半の学生にとって初めての経験であると考えられる。したがって、初学者にもわかりやすいように日常生活の事例を哲学思想と関連付けて説明するよう心掛けた(たとえば経験と習慣づけによって徳が習得されるとするアリストテレスの思想をアルバイト経験と結び付けて説明することで多くの学生が共感してくれた)。あまり事項を広げず、アリストテレス、功利主義、カントの思想のエッセンスを、日常生活の事例を用い、かつそれぞれを比較しながら繰り返し説明することを心がけた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>わかりやすさという点で言えばまだまだ課題は残るが、試験では学生たちはおおむね授業の趣旨を理解して的確に解答していた(テキストだけでなく板書や口頭の説明を網羅して非常に高い水準の論述答案を作成した学生もいた)。授業評価はおもにわかりやすさが評価基準となると思われるが、本講義のような科目においては各受講者それぞれの観点からの知的好奇心を喚起することがなにより重要である。「人生」の問題を「哲学」的思考と結びつけて考えることに関心をもつ学生には響くものがあったと思われるが(実際、毎回欠かさず授業後に質問に来る学生もいた)、現段階で関心のもてない学生はどうしても「難しい・難しすぎる」といった印象を受けるものだと思う。したがって、多数の学生ではなく少数であっても知的好奇心に応える内容だったと受け止められたならば授業に関しては十分目標が達成されたと考える。また「この授業を通して何を得たか」は、試験準備と試験結果をふまえてようやく把握できるものだとすれば、試験答案を見る限り、授業の趣旨は多くの学生に十分伝わったものと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度の自己評価を見る限り、各自の目標はほぼ到達されたと考えられる(ただし、学期終盤・試験前の自己評価であり、試験後に自己評価を行えばより正確な評価が得られるものと考えられる)。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>板書が見づらかった、板書の追加などによりノートが取りづらかった、誤字があった、初心者には難しすぎた、など厳しい指摘を受けた。真摯に受け止めたい。とくに板書についてはあとから追加・修正するなどノート作成上余計な手間を要することを控えたい。また説明のわかりやすさについても、日常生活の事例をさらに工夫して取り入れ、より馴染みやすい説明を心掛けたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業については改善点(板書、説明)が多々ある。試験については各自十分準備し、授業の趣旨を理解して臨んでいたと思う。人生の諸課題に哲学的観点からアプローチするという試みに、より多くの学生が興味を持てるように工夫したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話入門	1	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>For this course we used the textbook "Four Corners 1" (Cambridge), which guides students through practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building for the second half of the textbook.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 5 criteria (class tasks 58%, active participation 8%, homework 14%, and a final test 20%). The average student received a grade in the 75-85 range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were very enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to build skills (DP5) were provided throughout the course with many students taking advantage of the opportunity to learn.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>Goals for the next term include continuing to improve integration of supplementary materials into the current curriculum and increasing opportunities for kinesthetic learning (space permitting).</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>Streamlining and improving note taking and completion of class preparation exercises will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on class objectives.</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話入門	1	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into both Skills and Communication based learning. In this class, students used the textbook "Four Corners 1" (Cambridge) to practice 4 essential skill groups; reading, writing, listening and speaking. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. These exercises helped students review and reinforce their basic English skills.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment was based on attendance 15%, class work 30%, homework 25%, presentations 10%, and a final test 20%. Final grades were mostly in the 75-80% range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>Better use of supplementary materials and more student-teacher interaction would be an added benefit, if time allows.</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>More detailed instruction on how to use class workbooks to encourage careful note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to complete class workbooks without the guidance of the teacher in order to save class time.</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲル発展	1	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が全数を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>毎回行う小テストでは復習の成果が現れており、授業内容の理解度は悪くはなかった。到達度自己評価においては3～4点がでており、授業の質評価でも4～5であったことなどを根拠と考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考え、人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している、看護の対象と良好な関係を築くことができると定めたDPに沿うものであり、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、極力全員の理解度が揃うように内容を見直したりして授業のペース配分に重点をおいた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、語学の学習を介して異文化理解深めることで、看護の実践の場でいかせられるようなコミュニケーション力や広い視野を身につけていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、前期の「情報処理基礎」の内容を受けて、ICTの応用的な活用手法の修得を主目的とした授業である。「情報処理基礎」で基礎的なスキルと知識は終えているため、本科目では、より実務的なPCを用いた表現手法やデータ活用手法の修得に重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が3割程度に対し、「単位数を確保する」は5割程度となっている。前年は「単位数を確保する」が8割程度であったため、前期の「情報処理基礎」の最終日に本科目の受講意義についての講義を行い理解を促した結果が多少反映されていると思われる。しかしながら、まだ十分な改善がはかられているとは言えない状況であるため、更なる検討の余地がある。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  * 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.9点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」以上の学生が7割程度である結果から、授業目標である理想的なレベルを達成できたといえる。 学生の到達度自己評価でみると、全ての項目で「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が多くの比率を占めている。特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は「かなりそう思う」が他の項目に比べて高くなっている点は、前期の「情報処理基礎」からの継続を考慮した内容が反映されていると思われる。これらの結果より、本授業の趣旨目的から授業目的を十分に達成できている結果といえる。 しかし、専門分野との関係性に関する項目では、「かなりそう思う」の数値が上がってきていない。専門分野を意識した内容や課題を取り入れているが、専門分野を意識させるさらなる授業内容の構成が必要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。  <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する目的で、1年生前期の「情報処理基礎」に引き続き後期に実施される選択科目である。前期の「情報処理基礎」で修得した基礎スキルと知識を活用し、より実務的なデータ等の取り扱いや様々なICTするキルの活用手法等を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 専門分野と絡めた質問項目に対して、「かなりそう思う」の数値が上がってきていない。前年度の反省から看護学科という特殊性を考慮した素材や課題内容等を準備したが、さらなる改善が必要である。また、基本スキルや知識は問題ないが、それらを組み合わせでどのように活かしていくかという点では、その発想力に問題を抱えているが、成績面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、専門分野との関係性について多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、前年度の反省を踏まえて改善したにもかかわらず、専門分野と絡めた質問項目に対して「かなりそう思う」の数値が上がってきていない点は課題を残した。看護学科という特性を考慮し、扱うデータや課題内容等に専門性を意識させる内容をどのように取り入れていくかについては、次年度に向けさらなる検討をしていく。</p> <p>また、授業以外で如何に活用させるかということも授業のテーマとして取り組んでいたが、授業の課題以外では全く取り組まれておらず、十分な結果を残しているとは言えない状況である。これについても、どのように授業時間以外での活用を促すかについては、再度検討したい。</p> <p>学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。しかし、看護という専門職の中で本科目がどのように関係していくのかという点では、昨年度から改善する努力をしたものの、学生に十分な実感を持たせることができず、改善の余地を残した。</p> <p>以上から、専門職を意識させる取扱いデータや課題内容のさらなる改善を図っていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>個人的な体験が労働政策や福祉政策、教育制度などの現在の社会構造とどのように関連しているかを理解できるよう、社会学的視点で現状を分析できる力をつけることに重点を置いた。そのために、メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど情報を読み解く手法を伝えた。また、その社会構造の中で人生を選択してきた多方面の分野の外部講師を招聘し、個人の体験や専門的な領域について講話してもらい、学生に自己決定の重要性を実感できるようにした。特に、1年次の必修であり、この4年間の学生生活がキャリア形成にいかに関与しているかを理解できるよう努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業中のミニレポートでは、外部講師の話からこれまでさほど意識していなかった問題、例えば、労働問題などが実は身近な重要な課題であることを理解している学生は多かったことが確認された。また、。到達度自己評価から、社会の現状を分析的にみる視点の確保はある程度獲得できたと判断できる。ただし、試験結果からは個人的な体験や将来のキャリア形成とどのように関連付けるかについては、理解の格差がみられた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>1年次の必修であるため、キャリア形成への関心を広げ、充実した今後の学生生活につなげるよう学生をエンパワーしている点では、内容は評価できる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>看護学科は職業選択の道筋が見えていることから、それを踏まえうえで個人のキャリア形成を考えるよう随時働きかけた。ただし、受講者の数が非常に多く教室も広い ため、受講生同士の意見の交換や講師とに質疑応答が難しいことが課題となった。また、職業選択の方向性の異なる他学部 の学生も受講している中で、専攻科目とキャリア形成を具体的に関連付けるための自主的な時間を十分に確保できなかった。今後は、学籍番号順に座席を決めるなどして、意見を 得やすい環境を整備する。多彩な外部講師の存在は新たな知識を得て、社会事象を理解する視点の獲得に役立ったが、網羅的に受け止める学生もいたため、今後は、授業全体の 流れを体系的に理解できるよう初回での説明を十分に行う。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>多様なキャリア形成について、自分の人生と結び付ける力はある程度身につけたものと思われる。情報を読み解く力を現実の生活の中で活用し、自尊感情を伴う自己決定できるよう、キャリア形成についての理解を深める必要がある。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学に入学し最初に受講する基礎医学知識に関する講義であり、学生の基礎知識(高校生物履修の有無)にも差があることが予想され、また受講動機にあるように必修科目であることから興味の有無と関係なく受ける科目であったので、</p> <p>①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう試みた。 ②また一方向性で知識を講義する形は避けられないため、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的に行うようにした。 ③内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、復習の支援と促しとして、前回講義の内容の一部について小テストを行った。 ④折に触れ、医療に関するニュースや実例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任を考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。 ⑤解剖学実習に向けて、事前学習と事後学習についてその意義について十分に説明し、また予習方法と事後レポートについては構造化した指導を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>後期試験の平均点は67.0点であり、標準的なレベルに到達していると考えられたが、その内訳は、試験の点数より解剖学実習のレポートや毎回の小テストの点数で加算を得ており、知識が十分に定着していない学生もいることが想定される。</p> <p>一方で、学生自身の自覚評価は、到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた。と評価した学生は31+56/100人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた。とした学生は35+49/115人おり、前期より引き続き、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかった。上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮するが、講義内容の特性上、双方向性のやりとりは行いにくく、授業の質評価において、(4)自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。</p> <p>毎回、講義の冒頭に小テストを課したことにより、事前に一回30分以上の復習や準備を複数回行っていた学生が、27+21+39/100人と多く、自己学習の促しには繋がったと考えられた。</p> <p>解剖学実習については、学生全員、大変意欲的に取り組み、協力大学機関の教員より、その姿勢の評価をいただいた。終了後のレポートの得点平均も16/20点と高く、医療者として糧になる体験であったことが伺える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルの工夫も必要と考えられた。</p> <p>到達度自己評価において、(10)職業選択の参考になった、に対し、「かなりそう思う」とした学生が74/115人おり、看護師・医療職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにもかかわらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。</p> <p>後期の小テストでは、国家試験の過去問などを取り入れ、講義で学習した内容の定着と多面的な理解の必要性について実感できるよう工夫をしたが、知識の定着なく、選択肢問題を解くことは難しい状況であることが浮き彫りになった。</p> <p>また、一年生で学んだ基礎知識が、以後の臨床系の講義や実習の基盤になることを伝えながら、いかに短期記憶として表面的に知識を丸覚えするのではなく、物語として、その因果関係を、疾患の理解・検査の意義の理解・ケアにつなげていくかを意識しながら学生が学べるよう、今後工夫を重ねる必要がある。</p> <p>また臓器、機能系統別に、臨床の看護実践とリンクしやすいような工夫も今後必要と考えられ、他領域との連携も必須と考えられる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>知識ベースの科目であり、その点においては、一定程度の達成が見られたが、その定着については評価は困難であり、継続的な支援は必要と考える。学生たちの中に、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力が見受けられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持できるよう支援の工夫を今後重ねていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学総論	1	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>対象は臨床医学用語を初めて学習する1年生であるため、できるだけ平易な説明をした。毎回シラバスを確認し、各授業の目標を明らかにして授業を開始した。授業終了時には予習を促した。キーワードのノートを毎回チェックし、書写を促し、また漢字の説明をした。教科書の重要な文章を指摘し、マークを入れさせた。パワーポイントのプリントは国家試験に沿うように心がけ画像を多く紹介した。キーワードのノートを使って予習をしていた学生もいた。また、これを使って復習したという学生もいた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講人数は107名、受験したものが105名、最高94点、最低50点、平均点76.9点、標準偏差7.6で、再試を受けた者が6名であった。5点ごとに区分したヒストグラムのカーブとしては、ほぼきれいな正規分布と考えてよく、良好な教育がなされたと考えている。また、再試を受験した6名も合格点に達した。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>最も基本的な医学臨床の必須科目であり国家試験に類出する領域である。時期的にも教育内容も至極妥当なものと考えている。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の意見も非難めいたものは無く、ただ、ミニノートの使い方や進捗度についてはもう少し説明を行ったほうが良かったようである。次期は心掛けたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>達成度としては良いレベルに達したと評価している。ただ、教科書は大事な点のまとめにすぎず、実際の病人に対応するにはレベルが異なる。実習、演習、講義の学習組み合わせで自分のレベルを測定するよう促したい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健統計学	1	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保険統計学は、人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行おうとする社会医学の基礎です。臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing (根拠に基づいた看護)を行ううえで保健統計学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも保健統計学に関する問題が多く出題されます。</p> <p>学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計」を使用して、基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の前半は前回の復習にあてるようにしました。</p> <p>旧カリキュラムで「保健統計学」と「疫学」で講義していた内容から、公衆衛生看護学の疫学の授業との重複を避けて、講義内容を再編成しました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績評価の平均値79.7点、標準偏差11.6点、中央値80点でした。最高値100点で、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが102名中55名でした。一方、最低値55点で、60点未満は5名でした。再試験では受験した全員が60点以上でした。このように学生間で成績のばらつきはありましたが、最終的に標準レベルには到達していると判断しました。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、ほとんどの項目において平均値が3.9以上でした。コミュニケーションの項目については3.6でしたが、講義内容から考えてやむおえないです。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での臨床医学に関する授業、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。</p> <p>試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の項目では平均値4.3と高い値でした。授業の進め方については満足度が保たれていたと考えます。自由記載でも「分かりやすかった」とする評価が多かったです。ただ、「学生が参加する機会が作られていた」の項目は平均値3.5と低い値でした。この点は昨年度からの課題ですが、知識を教授する内容がメインですので、なかなか難しいです。また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生は約2-3割でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは約1-2割でした。学生が自ら勉強したくなるように興味を持ってもらうことが今後の課題です。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、標準的レベルに到達することができたと判断しました。 看護学科の1年生にとっては馴染みのない分野ですが、できるだけ興味を持って貰って、学生さんが積極的に参加できる授業にすることが課題と考えています。</p>
------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

## 1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障概説	1	後期	必修	いいえ	107

## 2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

## 3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、社会保険・社会福祉・公衆衛生の3つを柱として、看護職として医療機関や福祉施設、行政で活動するために不可欠な保健・医療・福祉の諸制度や法的根拠を解説している。中学・高校で学んだ内容が基盤であるが、看護学科の学生は法律や法律用語にかなりの苦手意識がある。受講動機を見ても、「必修科目である」から受講しているのであり、「関心のある内容である」は2.1%である。そのため、学生の「苦手」を前提に講義内容を組み立てている。テキストを購入しているが、専門書であるため、「教科書が読みづらく、学習する気にならない」と言う記載があった。専門書であればあるほど、学生はほとんど読んでもくることがない。毎回、中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントとスライドで解説している。講義の最後に出席シートに授業の感想、質問を記入してもらっており、記入された質問には、紙面にコメントまたは次の授業で回答した。
---	---

## 4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点70.8点であり、再試験対象は9名であった。成績の内訳は、秀 2名、優 16名、良 39名、可 48名、不可 1名であった。テストは、暗記で解答できる問題と、事例を考える問題を作成している。レポートは、「形式」「独自の考え」「根拠」「一貫性」「提出期限」を指標に採点した。初年次セミナーでレポートの書き方を学習しており、その形式を使って書くようにインフォメーションしたところ、多くの学生が形式を守っていた。この講義は、社会保障制度と社会問題を解説する内容であるため、授業内容の予習、復習を期待していたが、6割が1回以上の予習、復習をしていた。さらに、4割が図書館の文献、雑誌を利用していた。1年生で科目数が多い中、自己学習してくれた学生がいたことを評価するとともに、これからも社会の問題を自分で調べていける学生を育成したい。					

## 5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護実践の基盤に位置付けられている。そのため、社会保険、社会福祉の制度、法的根拠、対象、サービス内容、について「知識・理解」を得るために解説し、事例を通して「思考・判断」をしていく授業展開にしていた。具体的には、2～3回分の講義内容について、事例を通して振り返りをし、知識の確認と実際の対象の状況を考えていくように取り組んだ。 また、看護学を学んでいくための基礎知識として欠かせないと同時に、看護師国家試験においても一定数の問題が出題されている。そのため、「国家試験にはこう出る」という練習問題を実施していた。今後も、自分や家族にも関連した制度であること、自分の生活にも関係することとしてイメージできるように解説していきたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;  「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では、「説明は理解しやすいものであった」が平均3.4点と最も低かった。社会保障は、制度と法的根拠、その仕組みを覚えて、それから「なぜ？」や「課題」を思考していく。学生には、「覚える」と「考える」の説明が不足していたのかもしれない。しかし、「期間内に行うべき学習の範囲や課題があきらかであった」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」では平均3.8点であり、6割の学生が「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と答えていた。一方、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」では、8割の学生が「していない」と答えている。授業の解説を聞いてわからない時には、調べたり質問したりできるように、意識啓発や意欲の向上に努めたい。</p> <p>また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均3.2点と最も低い。講義の進め方としては、一方的に教える形式であったため、学生同士でディスカッションできる方法を取り入れるなど、講義方法を工夫していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>看護活動には、保健・医療・福祉の制度が不可欠である。学生にとって法律について苦手意識があるが、科目の重要性を説明して主体的に学んでもらえる動機づけをしたい。また、授業のねらい、達成目標、評価基準を共有し、学生自らが学ぶ目標をもてるようにしていきたい。その結果として、「知識・理解」と事例に対応できる「思考・判断」の達成度が上がる事を目標としたい。</p> <p>授業展開については、一方的な講義形式にせず、学生同士で話し合ったり確認し合ったりすることを加えていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
医療と倫理	1	後期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>医療と関係する倫理的諸問題を講義した。国家試験にも、たまに必須問題で出題されることがあるのでポイントを押さえるよう注意した。毎回シラバスを説明して講義を開始した。シラバスを参考にしたと答えた学生が約80%であり、もともと関心があったようである。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生は選択科目にしては人数が多く77名であり、最高点99点、最低点41点、平均点85.2点、標準偏差4.9であり、ヒストグラムは平均値の高い正規分布であった。講義後に講義内容の応用問題を出題し解答させたところほぼ全員が毎回講義内容を誤解無く理解していた。誤解は次の時間に必ずフィードバックし訂正解説した。作文も内容や文体において高いレベルを保っていた。目標は達成されたと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は選択科目であるが約80%の学生が受講し、強い動機で参加したと考える。「看護倫理」の講義が必修なので、本講義は選択科目として妥当と考える。学生のアンケートではインターネットを利用した学生も多く、自由記述では倫理について書かれた記事を読んだなどもあり、関心の高い領域であることをうかがわせた。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生から、看護師になる上で大切なことを考える良い機会になった、達成度も高かったなどの意見が多く、真面目に取り組んだ学生が多かったと考えている。参考書紹介なども行ったが、図書館を利用した学生は77名中6名と少なく、一方、ネット利用は13名と多めであった。今回もレポートがあまりに多いのではないかと意見が1人から出されているが、講義をある程度集中して聞いていれば容易にできるので、もう一期は同様とする。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>達成状況は、総括的には成功していると考え。一方、医療倫理では医学の進歩に追いつけないような例も出現している。ガイドラインの改定も多数あり、学生への紹介が十分かどうかを常に検証する必要があると考えている。学生が自分の力で考えてみようとする基本的な態度や知識を得させるのが課題である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活援助技術論演習	1	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「必修科目」(100%)だが、「資格取得に必要」(27.2%)、「関心のある内容」(9.8%)、「単位数を確保する」(9.8%)も認めており、学生の技術習得への関心がうかがえる。授業の実施に対して重点をおいたことは、「愛護的関わり」「臨床との合致性」「実技実施と根拠の思考」「個性」である。このためアクティブ・ラーニングを心がけ、「教えて考えさせる」に重点を置き、技術の遂行のみに学生が集中しないよう、根拠を思考できるような演習記録等を作成し授業を構成した。できたことは褒め、出来なかったことは、なぜできなかったのかを共に考えるようにし、学生のモチベーションを高めるように努力した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の達成度評価は、試験:60%、レポート等の提出物15%、実技試験25%による総合評価としている。最終成績の平均値は71.94±8.94点(最87点、最低42点)であった。成績の内訳は、秀0名(0%)、優26名(25%)、良44名(42.3%)、可33名(31.7%)、不可1名(1%)であった。筆記試験においては100点満点中、平均は65.24点で、昨年度とほぼ同様であった。また実技試験に関しては「排泄の援助」より「導尿」を実施、1回目の実技での合格で25点、再試験で15点、再試験不合格者は0点という配点である。1回目での合格者は64(61.5名)名、再試験合格者35(33.7)名、不合格者は5(4.8)名であった。よって1回目の実技試験の合格が総合評価に影響を与えていた。学生による授業評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4)が最も高く、「自分なりの目標を達成した」も4.1点で、全項目において4.0点以上の評価を得ている。しかし、1名ではあるが「自分なりの目標は達成できた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」では、「②少しそうではないと思う」と評価している。以上より、筆記試験の平均が65点であること、秀を取得した学生がいないこと、不合格者が1名存在していること、1名の学生は知識・技術等の修得において、少しそうではないと思うと判断していることから、「やや達成された」と判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護師の役割である「療養上の世話」の基本的知識と技術を学ぶ科目であり、看護実践の基本である。このため患者を生活者として捉え、個性性を考えながら、愛護的関わりが求められる。学習到達度の自己評価より、学生は看護の専門分野において、課題を検討する力、的確な判断力、意欲や技術の習得、コミュニケーション力、ルール遵守、職業選択において、すべて4.2点以上と評価している。また課題以外での学生の取り組みとしては、実技試験のための自主練習や、自主学習を行ったという意見も認められた。よって、専門科目として知識の定着面、思考面においては、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業に関しては、イメージを付けやすいように、「活動を援助する技術」など、タイトルをつけて行った。まずは講義で基礎知識を教授後、演習室でアクティブラーニングを活用しての演習を行う体制を継続した。演習した内容は演習記録に記載し、ポートフォリオを活用して学習した内容をまとめるようにした。演習は4～5人の固定メンバーで実施し、グループダイナミクスが発揮できるように調整を図った。授業の質評価の全ての項目が4.3または4.2点であった。予習復習をしていない学生は全体の1割程度で、ほとんどの学生は30分以上の予習・復習を行っている。また約半数の学生が図書館等の利用・活用を行っていたため、基本的には、次年度も今回の方法を継続していきたいと考えるが、時間調整にさらなる工夫を加え、学生同士の意見交換が行える時間を確保したいと考える。学生からは「教員によって言うことが違う」との意見があったが、生活援助技術は診療技術と異なり、患者の状態や、看護師の看護観によって、援助方法が異なるのが常である。よって学生には授業中より「答えは一つではない」と説明している。休憩時間は確保するように努めており、多々あるとは思えない。教員の退職等に関しては基本説明していない。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>学生による授業評価としては、すべての項目で4.0点以上であった。全体の評価点の平均は71.94±8.94点、不可な学生が1名いたが、シラバスに則った授業の目標は概ね達成できたと考える。</p>
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フィジカルアセスメント技術演習	1	後期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>フィジカルアセスメント技術演習の授業にあたっては、以下1～5を大切と考えて授業を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護アセスメントの前提となる基礎知識の理解はもとより、看護の対象の身体状態を正確に把握するために必要な基本看護技術(バイタルサイン測定技術など)を確実に習得できるように支援する。</li> <li>2. 「生きている」ための機能に係る主な器官系(呼吸器系・循環器系・消化器系)のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。</li> <li>3. 「生きていく」ための機能に係る主な器官系(感覚器系・脳神経系・運動器系)のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。</li> <li>4. 看護の対象を身体的側面のみならず、心理・社会的側面からも総合的に理解することの必要性とその見方・考え方を理解できるように支援する。</li> <li>5. 演習(技術習得の過程)を通して看護者役割を演じる自己を客観視し、看護者に望まれる姿勢・態度についても考える機会とし、期待される行動変容に繋げられるように支援する。</li> </ol>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価は、例年、筆記試験(60%)、実技試験(25%)、課題レポート及び学習貢献度(15%)による総合評価としているが、今年度の結果は、秀 4名(3.7%)、優 50名(27.2%)、良 39名(46.7%)、可 10名(9.3%)、不可(再試験該当者)4名(3.7%)で、クラス平均も77.93(SD 8.43)点、最高 95点、最低 42点で、昨年度の成績を大きく上回っていた。全体として「標準レベル」を超えた学生が93名(86.9%)おり、教育目標は「達成された」と判断した。</p> <p>受講動機は、当該科目が「必修科目」(100%)のため、学生は履修せざるを得ない状況にある。そうした中で、「資格取得に必要」(19.4%)、「単位数を確保する」(10.2%)、「関心のある内容」(9.2%)を受講動機とした学生が昨年度より多く、今年度受講生の意欲・関心の高さを窺わせた。</p> <p>学習量の評価に関する自由記述からは、「予習・復習」をはじめ「わからないところは自分で調べ学習した」、「図書館の本を借りて読んだ」、「関連図書を用いて学びを深めた」、「ノートまとめ」、「自主練習に取り組んだ」などの記述が多く見られ、毎回の授業(演習)に主体的・積極的に取り組んでいた学生の様子と、個々人の学が意欲の高さを窺い知ることができた。</p> <p>到達度自己評価では、中央値:4.0、平均値:4.2～4.5の範囲で推移、10項目中7項目は平均値が中央値を上回っていた。中央値より低かったのが「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.4/5.0)、および「職業選択の参考になった」(4.4/4.5)の3項目。うち、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5)は、10項目中最も高い評価であった。次いで、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を注いだ」(4.4)の4項目が、中央値を上回った。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>当該科目が「必修科目である」(100%)こと、また、学生が「資格取得に必要である」(19.4%)との認識もあって受講していたことから、学生は「自分なりの目標をもって」主体的に授業に臨んでいたと考える。それによって、学生の到達度自己評価「自分なりの目標を達成した」(平均値4.2、中央値4.0)は学部、学科の平均値を上回っており、また、科目に対する客観評価としての総合評価の結果からみても、DPから見た科目の位置づけ、当該科目の学習目標の内容的妥当性、および教育目標が「達成された」とする判断は裏づけられたと考える。学生の自由記述からも、フィジカルアセスメントの前提となる知識の理解のために「予習・復習」したり、「本を読み理解を深める努力をした」り、「わからなかったところを自分で調べたり」、「ファイルやノートの整理を行った」り、「図書を利用した」り、「調べ学習に取り組んだ」り、看護の対象者の身体状態を正確に把握するための看護の基本技術習得に向けて演習直後から熱心に「自主練習に取り組んだ」りと、自ら「学生が達成すべき行動目標」の達成に向けて、日々、努力を惜しまず学習に取り組んでいた。</p> <p>以上のことから、当該科目の授業内容は、学生の準備状況に応じた妥当な内容であったと判断する。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生108名を対象に、例年と同じく、看護の対象者の身体状態を把握するためのスクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）、「生きている」ための機能に係る呼吸器系・循環器系・消化器系、「生きていく」ための機能に係る感覚器系・脳神経系、運動器（筋・骨格）系のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得を目指して、講義・デモンストレーション・技術演習の流れを基本とする1単位 30時間（2コマ連続 8回）の授業を行った。実際は、1単位 30時間に納めるにはかなりボリュームのある内容であり、加えて、バイタルサイン測定技術については実技試験を実施するため、学生にとっては、ある意味ハードな科目と言える。さらに、今年度は、基礎看護学担当教員数未充足（本来7名のところを2名不足の5名で対応）の中で授業（演習）を展開することとなった。さらに、後期は3年生各論実習が始まるため、看護学科助教・助手の応援要請もより厳しくなり、結果として、特に12月以降は、基礎看護学分野の教員3名（欠員1）と助手3名（1月以降は常勤2名＋アルバイト1名）で対応せざるを得なかった。108名の学生の基本看護技術習得を確実なものとする上で、人的には十分な学習環境を提供できたとは言いがた、学生個別のきめ細かな支援の不足という心配は、学生の「説明が不十分」「少人数で行う割に対応が浅い」の記述からも裏付けられた。また、これまでなかった「助手教員のひいきがある」との記述が複数あり、担当者が限られたことでの弊害が、今後、演習時の教員配置、指導時の関わり方（平等性・公平性・機会均等）など、留意・改善すべきと考えている。まずは、教員および助教・助手の人員確保が、基礎看護学としての教育の質保障にとって喫緊の課題である。</p> <p>学習量の評価については、いずれも8割近い学生が「予習・復習」「自発的学習」「調べ学習」「図書の利用」「自主練習」に取り組んでおり、学習習慣の定着化には繋がっていた。但し、情報利用について、凡そ7割の学生が「シラバスの記載を参考にした」と回答した一方で、「あらかじめ授業の計画を立てた」学生は全体の4割程度（46/108名）に留まっており、主体的学習者として学ぶ姿勢、学び意欲関心については課題が残る。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>当該科目の成績評価は、筆記試験(60%)、実技試験(25%)、課題レポート及び学習貢献度(15%)による総合評価としている。今年度の結果は、秀 4名(3.7%)、優 50名(27.2%)、良 39名(46.7%)、可 10名(9.3%)、不可(再試験該当者)4名(3.7%)で、クラス平均も77.93(SD 8.43)点、最高 95点、最低 42点で、昨年度の成績を大きく上回っていた。全体として「標準レベル」を超えた学生が93名(86.9%)おり、教育目標は「達成された」と判断した。</p> <p>学生による到達度自己評価では、中央値:4.0、5.0、平均値:4.2~4.5の範囲で推移、10項目中7項目は平均値が中央値を上回っていた。中央値より低かったのが、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.4/5.0)、および「職業選択の参考になった」(4.4/4.5)の3項目、うち「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5)は、10項目中最も高い評価であった。次いで、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.3)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.3)と続き、「自分なりの目標を達成した」(4.2)、と「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.2)が全体の中では低値であったが、いずれも中央値よりは高かった。なお、到達度自己評価は、いずれも学部、学科の平均値を上回っており、成績評価と併せて、当該科目の教育目標は「達成された」と判断した。</p> <p>授業の質評価についても、ほぼ平均値が中央値を上回っており、主体的学修を促そうとの教員側の取り組みは、教育目標の達成に有効であったと考えている。今後の課題は、「学習計画立案者の意識を高め、看護学科の活用にも努め、具体的検討、見直しを行い、よりよい授業を実施する」ことである。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	1	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、今年度より2年生の後期科目から1年生の前期科目となった。学生の受講動機は、例年変わらず「必修科目である」ことが、ほとんどの学生の動機であり、特に今年度は初学年の学生でもあり、99%を占めている。</p> <p>これらの事を踏まえ、第1回の授業では、シラバスによる説明で、本科目を学ぶ意義について重点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生の理解しやすい言葉で説明した。今年度から1年生の講義であることを踏まえ、毎時のコメントカードで得られた学習内容への質問・意見等は次の講義冒頭に還元し、学習内容の理解に努めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は78.9点であり、再試対象者は7名であった。標準的レベルに達した学生が93.2%であった。内、理想的レベルに達した者は62.1%と、6割の学生が達成した。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては80.9%(参考:2年生対象72.5%)、思考判断に関しては81.0%(参考:2年生対象77.7%)、意欲・関心に関しては90.0%(参考:2年生対象66.0%)であった。</p> <p>対象学年が1年生であることをふまえ、今年度は学生にできるだけ生活者の目線における地域の看護を理解しやすい内容及び学習方法の検討を行なった結果、知識理解、思考判断および意欲・関心のいずれも高い割合となった。</p> <p>学生による授業評価においては、到達度自己評価では、例年受講動機における関心の低さに比べ、全体的に関心を示している状況が伺えるが、本年も同様の傾向がみられた。学生の親しみが少ない保健師活動が具体的にイメージできる導入科目としての役割を果たしていると考えられる。</p> <p>授業の質評価の項目において、「説明は理解しやすいものであったか」については、(まったくそうでないと思う・少しそうでないと思う)と理解しづらさを感じていた学生が0%であり、今まで2年生を対象としていた時の2015年度18.2%、2016年度9.5%、2017年度1.0%を改善している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の質評価において、すべての項目が3.5から3.9であった。理解しやすい授業を構成すること、学生の主体的参加への試みが少しずつ改善していることが伺える、最終的に目標達成のための成果として、得点の上昇は確認できる。</p> <p>教育課程における本科目が果たす位置づけとしての内容的妥当性は、求められる状況を近づいていると考えられる。</p> <p>受講動機から授業後に学生の変化が見られることが学生自身が実感できる授業の展開を継続的に目指したい。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、保健師課程のみが必要とする科目と捉えがちであるが、教育課程においては「看護の基本」に位置づけられており、これからの日本の状況を考えると、地域での生活者への看護者の視点は、基盤となる科目である。</p> <p>本年度は、1年生である科目となり、特に科目導入時及び毎時の授業時に学習する意味について説明を加え、授業を展開したことで、科目の評価として、93.2%が標準的レベルに達し、かつ6割の学生が理想的レベルに達した。加えて「理解しづらさ」を感じた学生が0%と減少したことは、学生が達成すべき行動目標が概ね達成できたと考えられる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>教育課程においては「看護の基本」に位置づけられている本科目の役割は、果たすために、受講学生全員の達成状況を上げること、そのためには学生自身が主体的学習者として、関心をもち、上位学年の学習意欲につながることを目指して授業改善を図っていきたい。</p>
------------------------------	---